



2022年度JICA横浜 教師国内研修

実施報告書&ワークショップ集



SDGs
誰一人取り残さない
多文化共生
~日本人移民・日系人をテーマに~

独立行政法人国際協力機構
横浜センター(JICA横浜)

目次

教師国内研修について

教師国内研修とは	04
参加者一覧／日程	05
研修の軌跡	06

Work Shop

あなたにとって多文化共生とは？	12
フードバスケット～「ひとりぼっち」をつくらない～	13

実践授業報告

各報告者の真に アンケート含む	①本研修参加の動機	②日系人・日本人移住者から学んだこと
	③本研修参加前と後のご自身の变化	④本研修からの最大の収穫は？
	⑤その他、本研修に参加した感想	⑥授業実践を経て、学習者(児童・生徒)の変化、反応

小学校(3名)

井上 奨太(川崎市立上作延小学校)「ひとりぼっちをつくらない」	32
松田 明子(三浦市立初声小学校)「国際理解・多文化共生、共生社会について考える」	38
村越 都季恵(藤沢市立高砂小学校)「見方・考え方をかえればひとりぼっちはいない」	46

中学校(1名)

山本 麻衣(横浜市立すすき野中学校)「国際理解、多文化共生を通して、共生社会について考えてみよう」	52
---------------------------------------------------	----

高校(2名)

小林 和紀(川崎市立高津高等学校)「人種・民族問題」	60
本田 晃寛(神奈川県立横浜旭陵高等学校)「多文化共生、多文化主義、寛容、包摂」	66

【多文化共生について】子どもたちに伝えたい！ 78

【多文化共生について】教員に伝えたい！ 79

【ワークショップづくり、実践などについて】教員に伝えたい！ 80

※この報告書に掲載されている意見は、本研修参加者によるものであり、JICA を代表するものではありません。
※参加者の所属等は、2022年度のものであります。

教師国内研修とは

1. 研修概要

教師国内研修は、講義、インタビュー、ビデオレター、フィールドワークを実施し、その経験を国際理解教育・開発教育の実践に役立てていただくための研修プログラムです。（「教師海外研修」の代替研修として実施いたしました）

2. 研修のねらいとゴール

世界でも、地域でも、そして学校でも、多様な人々と共に生きるために必要なことの一つに、異なる文化や価値観を受容、尊重することが挙げられます。また、受容、尊重する過程で自分自身に気づいたり、自己肯定感が高まったりすることも期待できます。他者も自分も認めながら“誰一人取り残さない”世界づくりに積極的に参画する人が増えてほしいという願いのもと、本研修では、日本人移住者・日系人とSDGsを視座に、多文化共生社会の実現を目指し、教室から実践できる次代を担う子どもたちを育成することをねらいとします。

日本から海外に渡った日本人移住者の歴史や、海外から日本に戻ってきた人々の暮らし等に触れることを通して、多文化共生について理解を深めていただきます。研修で得た知識や経験をもとに、「多文化共生」をテーマに、海外移住資料館等を活用した探究活動の作成を研修のゴールとします。

3. 応募資格

神奈川県と山梨県の学校現場で国際理解教育・開発教育に取り組んでいる、または関心を持ち、研修および報告会の全日程に参加可能な教員等で、所属長の推薦が得られる方。

4. 研修期間

2022年7月～2023年3月 全7回と国内フィールドワークを実施

参加者一覧（五十音順）

氏名	学校名	学年 / 担当教科
井上 奨太	川崎市立上作延小学校	1学年
小林 和紀	川崎市立高津高等学校	地理 歴史 公民
本田 晃寛	神奈川県立横浜旭陵高等学校	地理 歴史 公民
松田 明子	三浦市立初声小学校	4学年
村越 都季恵	藤沢市立高砂小学校	1学年
山本 麻衣	横浜市立すすき野中学校	1学年 / 保健体育

（所属等は2022年3月現在）

日程

	日程	行程	内容
1回目	7月16日	開発教育	「開発教育教員セミナー基礎編」への参加
2回目	7月30日	オリエンテーション	研修内容の確認、チームビルディング
3回目	8月6日	SDGs	講義、ワークショップ体験
4回目	8月14日	日本人移民・日系人	海外移住資料館見学、講義、教材体験
フィールドワーク	8月16日	多文化共生	いちょう団地、鶴見地区でのフィールドワーク
5回目	9月17日	日本人移民・日系人	日系人インタビュー
6回目	10月22日	多文化共生	教材化の検討
	11月～12月	各自授業実践	各所属先にて授業実践
7回目	1月28日	多文化共生	実演&フィードバック会
報告会	2月19日	報告	「SDGsよこはま」で最終報告会

研修の軌跡

第1回目：7月16日(土)

● 国際理解教育／開発教育 教員セミナー(基礎編)への参加

かながわ開発教育センター(K-DEC) 代表の山西優二氏(早稲田大学教授)の講演から、国際理解教育／開発教育の基礎概念を学びました。

暴力について、①直接的暴力(戦争や紛争がないこと)、②構造的暴力(貧困や差別がないこと)、③の状況に置かれる人々は多数存在する、ということが印象的でした。

1994年「ルワンダ大虐殺」の経験者トワリ・マリールーズさんの講演では、歴史、命、伝えることの大切さについて深く考えさせられました。



● ワークショップ体験

カラフルな風船を使用したダイナミックなワークショップでは、話さずミッションを達成する過程で、コミュニケーションの大切さを実感しました。



第2回目：7月30日(土)

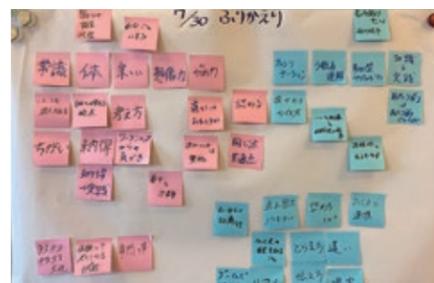
● チームビルディング

チームビルディングを目的に、じっくり語り合いました。「多文化共生の理想の姿と児童生徒の現状」の共有では、イメージとして「違いを知る」「違いを認める」などが挙がりましたが、一体「認める」「認め合う」とはどのようなことなのかという疑問が出るなど、盛り上がりました。楽しみながら学習者が何かに気づくような仕掛けが必要だと気づきました。



● ワークショップ体験

5つのワークショップを体験し、これから作る探求学習案や教材案のヒントを多く得ました。



第3回目：8月6日(土)

● SDGs

特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議(ESD-J) 野口扶美子氏による講義とワークショップ。自分や自分の周り、地域にある課題に感じている課題について、環境・社会・経済・文化の視点からcompassを作成するワークなどを経て、持続可能な開発のためには、一般的な常識・大前提を超える必要があるということ学びました。



● 情報収集

図書館や企画展等を活用し、SDGsの実践例やSDGsをテーマとしたワークショップ、アクティビティについての情報を入手しました。



第4回目：8月14日(日)

● 日本人移民の歴史と日系人の現在

海外日系人協会の小嶋茂氏による講義。見た目では判断できないこと、「日系」と「ニッケイ」は違うこと、移住した方々が現地の文化づくりに参加し貢献していることなど多くを学びました。



● 海外移住資料館見学

戦後の「ララ物資」が印象的でした。海外からの救援物資は当時の金額で約80億円にもなったと知り、国境を越えた人のつながりに感動したと同時に、日本人移民の方々は自身をどのようにとらえているのか、という疑問が挙がり今後の研修が楽しみになりました。

フィールドワーク：8月16日(火)

神奈川県内の多文化を学ぶフィールドワーク。園児の5割以上が外国にルーツを持っているという横浜市立北上飯田保育園では、子どもや保護者との接し方、先生方の愛情あふれる対応などを聞きしました。人間一人一人を大事にする保育をされている姿から、多文化共生のヒントを得ることができました。



在日朝鮮人、南米から移住して来られた日系人や、沖縄から移住して来られた方々などが多く暮らし、「多文化共生のまちづくり」を行っている鶴見地区にも出かけました。多国籍商品を扱うスーパー「Mahaloh」の店長から、日本人と外国人の共生の在り方のヒントを得ることができました。公益財団法人横浜市国際交流協会鶴見国際交流ラウンジ館長補佐の沼尾実氏からは、鶴見地区の歴史や、学校の先生が子どもたちにできることのヒント、またアイデンティティの確認が子どもを元気にすること等、深いお話をいただきました。マイノリティの視点と、マジョリティの視点、両方から多文化共生を捉えることが重要だと気づきました。



第5回目：9月17日(土)

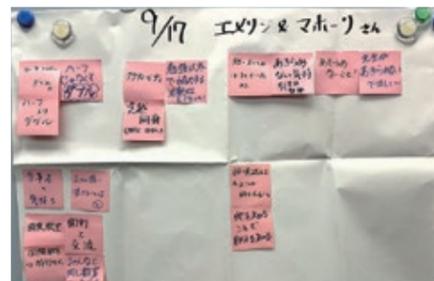
● 当事者の声を聞く

日系人2名へのオンラインインタビュー。小学5年生や中学1年生の時にブラジルから日本に移住してきたというゲストから、当時のカルチャーショック経験、学校や日常生活で感じていた気持ちをお話いただきました。当事者の気持ちを大切にすること、諦めずに少しずつ手伝えること、他を知ることで自分を知ることなど、多くのことを学びました。



● 探究活動案の作成

いよいよ、これまでの学びを生かして児童生徒に気づかせたいこと、考えさせたいことなどをまとめる作業の始まり。理想と現状のギャップを埋めるにはどのような内容を入れたら良いか、みんなでじっくり話し合いました。



第6回目：10月22日(土)

● 探究活動案の作成

各自が考えてきたワークの共有後、何となく指針が見えてきました。果物や野菜のカードを使って「ひとりぼっち」にさせないことを考えさせるアクティビティにまとめ始めた瞬間でした。

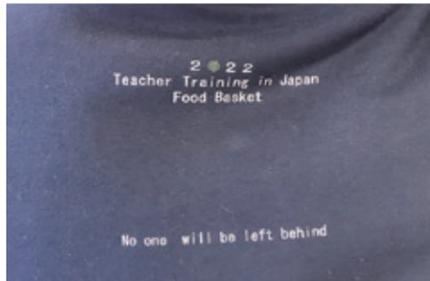


第7回目：1月14日(土)

● アクティビティ実演 & フィードバック会

本研修の過年度参加者をお招きして、アクティビティの実演とフィードバック会を実施しました。「ひとりぼっち」の概念や、ワークの詳細まで検討することができて、完成が近づいてきたと実感しました。ご協力いただいた皆さま本当にありがとうございました！





Workshop



フードバスケット ～「ひとりぼっち」をつくらない～

2022年度教師国内研修参加者 [撮影: 2022年教師国内研修事務局]

あなたにとって多文化共生とは？

フードバスケット ～「ひとりぼっち」をつくらない～

松田 明子

遠くの誰かについて考えること、身近な人を大切にすること。グローバルとローカルは対極ではなく、誰もが大切にされるという同じ視点を持ちよりよい社会を探っていくこと。

小林 和紀

区別と差別は似ているが、実際は全く違うということを学びました。

本田 晃寛

誰もが幸せになれる最善の方法です。そして異文化から受ける刺激は私の人生を豊かで幸せにしてくれます。

井上 奨太

自分が自分らしく生きるといことです。そして、お互いの文化的違いを認め合い、互いに力を合わせながら共に生きていくことだと思っています。

村越 都季恵

違いを認め合い互いの文化をリスペクトすることです。自分のことも大切に、相手のことも大切にすることです。

山本 麻衣

多文化とは、外国につながりがあると考えがちですが、実は、今、自分がいる周りも多文化です。意見や性格など違いを認め、受け入れて共存していく事だと思っています。相手の立場を考え、思いやる気持ちが大切だと思っています。

ワークショップのねらい(気づいてほしい視点)

【ねらい①】：小学生・中学生・高校生向け

だれひとり取り残さないためには、見た目や印象で判断する偏見をなくす必要があることに気づく

【ねらい②】：中学生・高校生向け

異なる考え方や文化を受け入れ、共に生きる態度を育てる

はじめに

本ワークショップは多文化共生の考え方にに基づき、小学校1年生から高校3年生までが使用できるものをめざして作成しました。

参加する児童・生徒の発達段階や実態、生活環境に合わせて2段階のねらいを設定しています。【ねらい①】は「偏見をなくし、仲間はずれをつくらない」こと、つまり『「ひとりぼっち」をつくらない』ことをねらいとしています。

もちろん、「ひとり」で何かをすることに幸せを感じたり、落ち着いたりすることもあるでしょう。しかし、そのような心地よい「ひとり」が望まれるのは、ある集団のなかでマイノリティの立場にあっても、その集団から受け入れられているという安心感があることそのものだと考えます。私たちは、偏見や差別によって、社会の中で本人が望まない孤独にある「ひとり」の状態を「ひとりぼっち」ととらえ、ワークショップ全体のサブテーマも『「ひとりぼっち」をつくらない』としています。

そして、【ねらい②】は【ねらい①】よりも発展的なねらいです。「仲間はずれを作ることがよくないことである」という価値観が十分に共有されている集団では、【ねらい①】はすでに達成されているといえます。一方で、同じ集団の仲間に入れようとするあまり、個性を尊重する態度が失われがちです。【ねらい②】では、「ひとり」を望む価値観も尊重し、それを認めて共に生きる態度を育てようというものです。

【ねらい①】は多文化共生の土台となるねらいであり、小学生をはじめとするすべての児童・生徒に設定すべきねらいです。そして、【ねらい②】は、おもに個人の価値観が成熟した中学生や高校生に設定すべき発展的なねらいといえるでしょう。

もちろん、参加する児童・生徒の発達段階や実態、生活環境に合わせて、校種にとられることなく2段階のねらいを柔軟に設定することが可能です。

教材内容

- **フードカード40枚**：児童・生徒1人につき1枚
- **ワークシート**：児童・生徒の発達段階や実態、生活環境に合わせたワークシート

補助教材

- **写真資料**：ビッグファミリー(海外移住資料館)

カードは、名前の頭文字が異なる40枚の食べ物で構成されています。カードには、表に食べ物の名称とイラスト、裏には、色・形・野菜か果物の3つの特徴が記載されています。

ワークショップでは、40枚のカードを1人につき1枚配り、ファシリテーターの問いに対して、裏に記載されている特徴をもとにグループを作っていきます。

ワークショップの一番のポイントは、色で別れる時に黒色(くろ)の「スイカ」が「ひとりぼっち」になるように作られている点です。その際に、「ひとりぼっち」の参加者へどのような言葉をかけたり、どのような行動に移したりするかを考えることで、設定したねらいへと近づくことがゴールです。

また、「だれひとり取り残さないためには、見た目や印象で判断する偏見をなくす必要がある」というねらいのゴールにより近づくために、補助教材としてビッグファミリー(海外移住資料館)を使用することもできます。日系人を含むビッグファミリーの写真を使って、見た目ですべてを判断してしまうという自身の持つ価値観に気づくことができます。

所要時間	25～40分
全体の人数	5～40名程度(カードの配り方次第で調整可)
準備するもの	<ul style="list-style-type: none"> ■フードカード(野菜・果物)：児童・生徒1人につき1枚 ■ワークシート：児童・生徒の発達段階や生活環境に合わせたワークシート
補助教材	■写真資料：ビッグファミリー(海外移住資料館)

進め方

導入① (2分)

◎カードの選抜、配布

ファシリテーター

《カードの選び方》に気をつけてカードを選び1人に1枚配付する。

《カードの選び方》

- ・形と色の組み合わせに気をつけて選ぶ。
- ・スイカは必ず選ぶ。

→POINT参照

《それぞれのカードの種類》

形(まる(大)・だえん・ほそながい・まる(中)・まる(小))
色(くろ・きいろ・あか・みどり・しろ・オレンジ・むらさき・ちゃいろ)
種類(やさい・くだもの)

POINT

このあと形と色のそれぞれの問いでグループを作る時に、2人以上のグループがいくつかできるようにカードを選びます。
形ではスイカと同じ「まる(大)」を配るカードの中に混ぜておきます。
色はスイカのみ「くろ」です。スイカを入れてカードを配れば、必ず色の問いで孤立するようになっています。色でグループを作る時に考え方を覚えて仲間に入れるために、色の特徴が「あか」のカードも配るようにするといいです。
種類の組み合わせは、あまり気にする必要はありません。

導入② (5分)

◎アイスブレイク

問い
五十音順で丸く並ぼう

ファシリテーター

イラストの書かれた表を見るように伝える。
参加者に問いを伝え、クラス全体が参加できるようにする。

参加者

カードを見て、五十音順に円を作る。

POINT

中学校や高校では、会話を禁止すると難易度が上がります。
小学校の低学年など、五十音順に並ぶことが難しい校種で実践する場合には、アイスブレイクを飛ばすこともできます。
アイスブレイクが終わったら、今後の問いについても全員が参加しなければ成立しないことを伝えます。

<p>展開① (2分)</p>	<p>◎ルール確認</p> <p>ファシリテーター</p> <p>参加者の実態に合わせてルールを設定し、確認する。</p> <p>《ルール》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ひとりぼっち」を作らないように、いろいろなグループを作る。 ・グループに分かれる時、指示がある時以外は話してはいけない。 ・グループができたら座る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">POINT</p> <p>1つ目のルール以外は校種や生徒の実態に合わせて変更が可能です。メリハリをつけるためにそれぞれの問いで制限時間を設けるのも効果的です。高校生での実践では1つ目のルールを伝えず、ワークショップの意図を考えながら参加するように促すことも可能です。また、発話を制限して話すことができない状況を作るとは、言語が通じない移住者の状況を疑似体験することにも繋がります。</p> </div>
<p>展開② (3分)</p>	<p>◎形で分かれる</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>問い</p> <p>同じ形でまとまるう</p> </div> <p>ファシリテーター</p> <p>参加者に問いを伝え、クラス全体が参加できるようにする。</p> <p>2人以上のできるだけ多くのまとまりを同じ形どうしで作るように伝える。</p> <p>終わったら、どのような形の種類があったか確認する。</p> <p>参加者</p> <p>カードの裏の特徴をもとに、同じ形でグループを作る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">POINT</p> <p>「だえん」は小学生の低学年には難しい場合があります。カードを配る時は、校種に合わせて形を選んでください。</p> </div>
<p>展開③ (5分)</p>	<p>◎色で分かれる</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>問い</p> <p>同じ色でまとまるう</p> </div> <p>ファシリテーター</p> <p>参加者に問いを伝え、クラス全体が参加できるようにする。</p> <p>2人以上のできるだけ多くのまとまりを同じ色どうしで作るように伝える。</p> <p>参加者</p> <p>カードの裏の特徴をもとに、同じ色でグループを作る。</p>

	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>POINT</p> <p>選び方次第で「ひとりぼっち」になるカードの枚数は様々です。スイカ以外の他の色も1枚だけ選んでおけば、複数のカードが「ひとりぼっち」になるようにすることも可能です。「ひとりぼっち」のカードを複数にすることで参加者の心理的な不安も軽減できます。</p> </div>
<p>展開④ (5分)</p>	<p>◎「ひとりぼっち」を仲間に入れる</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>問い</p> <p>スイカを仲間に入れるにはどうすればいいだろうか</p> </div> <p>ファシリテーター</p> <p>「ひとりぼっち」以外のグループには、どのような色があるか確認する。</p> <p>結果を整理し、「ひとりぼっち」になっているカードを確認する。</p> <p>全体に問いをなげかけ、「ひとりぼっち」をつくらない方法を考える。</p> <p>参加者</p> <p>「ひとりぼっち」以外のグループの色から、「ひとりぼっち」がグループに入るにはどうすればよいか考える。</p> <p>「ひとりぼっち」を仲間に入れる案を出す。</p> <p>《予想される参加者の答え》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スイカは切れれば中は赤色である。 ・もっと大きな分け方にすれば仲間に入れる。 ・ミキサーでジュースにすればいい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">POINT</p> <p>ファシリテーターと参加者との信頼関係が成立していれば、「ひとりぼっち」になった参加者に対して今の心情を聞いてみましょう。</p> <p>「寂しい」「怖い」「悲しい」などの心情が他の参加者に共有されると、ワークショップが【ねらい①】を達成する上でより効果的になります。</p> <p>《発展》【ねらい②】をゴールに設定する場合</p> <p>「ひとりでもかまわない」という心情が出された場合は、ファシリテーターの判断でワークショップのゴールを【ねらい②】へと近づけることが考えられます。</p> <p>そのような心情が出なかった場合も、「ひとり」が心地良い場合もあることを全体に対して投げかけてみましょう。</p> <p>自分の意見がはっきりしてくる中学生・高校生の校種では「ひとりぼっち」の参加者に対して、どのグループに入れてもらいたいのか、または、ひとりのままでよいかという選択を迫ることで「ひとり」を望む価値観もあることに気づかせることも可能です。</p> </div>

<p>展開⑤ (3分)</p>	<p>◎種類で分かれる</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;"> <p>問い 同じ種類で分かれよう</p> </div> <p>ファシリテーター</p> <p>参加者に問いを伝え、クラス全体が参加できるようにする。 2人以上のできるだけ多くのまとまりを同じ種類どうしで作るように伝える。 終わったら、どのような種類があったか確認する。</p> <p>参加者</p> <p>カードの裏の特徴をもとに、同じ種類でグループを作る。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">POINT</p> <p>ここでは、分け方を広くとることで「ひとりぼっち」がなくなることや、「野菜」か「果物」か議論が分かれる中間のカードがあることに気づくことができます。ファシリテーターの問いかけ次第で、1つ1つの個性は変わらなくても考え方を変えれば「ひとりぼっち」は生まれないこと、さまざまな物事の分け方は人間が決めていることについて考えることができます。</p> <p>種類で分かれる問いは参加者に合わせて使用を見送ることもできます。その場合、カード裏面の種類(やさい・くだもの)は削除することも可能です。</p> </div>
<p>展開⑥ (3分)</p>	<p>◎大きなまとまりを作る</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;"> <p>問い できるだけ大きなまとまりを作ろう</p> </div> <p>ファシリテーター</p> <p>最後の問いは参加者どうしで話してもいいことを伝える。 参加者に問いを伝え、クラス全体が参加できるようにする。 できるだけ大きなまとまりを作るように伝える。</p> <p>参加者</p> <p>話し合いながら、できるだけ大きなまとまりをつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">POINT</p> <p>最終的には参加者全体が大きなまとまりとして1つの集団になることがねらいです。できるだけ参加者の気づきに任せて、ファシリテーターは「全員で」といった言葉は使わないようにしましょう。</p> <p>1つ前の問いを見送った場合で、「野菜」と「果物」に分かれて参加者の動きが止まってしまった場合には、もっと大きな分け方はないか問いかけてみましょう。</p> </div>

<p>展開⑦ (7分)</p>	<p>◎日本に関係のある人</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;"> <p>問い 日本に関係のある人は何人いるだろう</p> </div> <p>ファシリテーター</p> <p>補助教材として写真資料ビッグファミリー(海外移住資料館)を使用する。 参加者に問いを伝える。</p> <p>参加者</p> <p>写真のなかで日本に関係のある人を数える。</p> <p>《予想される答え》</p> <p>見ただ目で日本人っぽい人がいる。 ハワイっぽいので日本人はいない。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">POINT</p> <p>最後にどのような人々の集まりか問いかけてみましょう。日系人という存在を紹介することで、見た目よりも内面にめを向ける必要があることに気づくことができます。 場合によっては、使用を見送ることもできます。</p> </div>
<p>まとめ (10分)</p>	<p>◎今日の振り返り</p> <p>ファシリテーター</p> <p>ワークショップ全体の振り返りを行う</p> <p>参加者</p> <p>問いについて振り返り、ワークシートに記入する。</p> <p>《考えられる問い》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スイカが「ひとりぼっち」になった時、スイカはどんな気持ちだったか。 ・スイカが「ひとりぼっち」になった時、それ以外の人はどんな気持ちだったか。 ・スイカにはどんな声をかけてあげるのがいいか。 ・見た目によらない分け方はあるだろうか。 ・今後の生活の中で「ひとりぼっち」を見つけたらどうしますか。 ・共通点が見つからない時どのような気持ちになりましたか。 ・ゲームがおもしろくなるためには種類の数は多い方がいいか、少ない方がいいか。 ・「ひとりぼっち」が食べ物じゃなく人だったらどうするか。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">POINT</p> <p>振り返りでは説得よりも納得を心がけましょう。ファシリテーターは参加者に答えを与えるのではなく、ワークショップの経験から考えたことを引き出すようにしましょう。</p> </div>

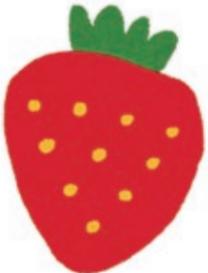
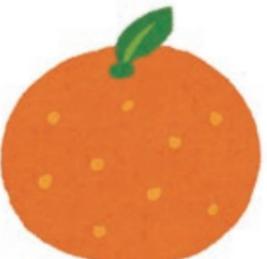
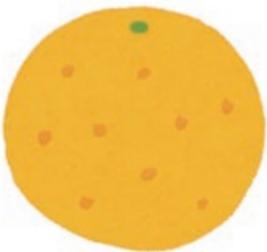
補足説明 (必要に応じて)

- ・本ワークショップは小学校1年生から高校3年生までが使えるように汎用性、柔軟性のあるものになっています。参加者に合わせて各ファシリテーターが工夫して実施することをおすすめします。
- ・ワークショップの形、色、種類の問いは必要に応じて順番を変えてください。例えば種類→形→色という問いの順番にして分け方を徐々に小さくしていく方法があります。「ひとりぼっち」ができる原因が見目で判断していたり、分け方の枠組みによるものであったりすることに気づくことができます。
- ・仲間はずれになるのは「スイカ」だけに限りません。カードの組み合わせ次第で他のカードを孤立させることもできます。
- ・裏の特徴もそれぞれのカードが持つ一面にすぎないことを伝えましょう。だれもが社会では何かの集団に属して生活していますが、個人はかけがえのない存在であると気づくことが大切です。場合によっては、参加者が自身のカードを自慢する機会をもうけることも効果的です。
- ・本ワークショップをより効果的にするために、ファシリテーターの判断で具体的な事例と関連付けると良いでしょう。多文化共生はもちろん、人権問題、移民問題との相性がよいです。ワークショップはそれ自体が目的ではなく、何らかの気づきをもたらして納得できることが重要です。
- ・各教科での実践だけでなく、ホームルームで児童・生徒の揉め事が起きた時の他者理解の教材としても使用できます。
- ・フードカードの名前や特徴にさまざまなパターンを用意しました。各自でダウンロードしてご活用ください。

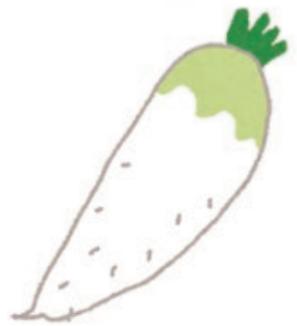
応用編

産地クイズ

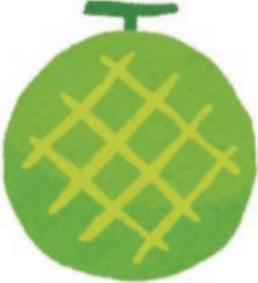
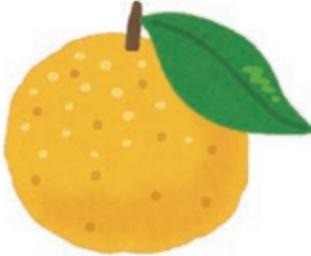
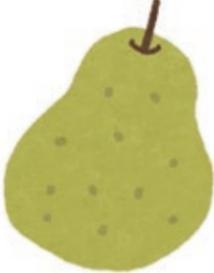
それぞれのカードの原産地を調べる学習をします。食べ物の好き嫌いは原産地で決まることはほとんど無いことに気づき、出身によって差別や偏見を持たないことが大切であることに気づくことができます。

<p>アボカド</p> 	<p>いちご</p> 	<p>うめ</p> 
<p>えだまめ</p> 	<p>オレンジ</p> 	<p>かぶ</p> 
<p>きゅうり</p> 	<p>グレープフルーツ</p> 	<p>こめ</p> 
<p>さつまいも</p> 	<p>じゃがいも</p> 	<p>スイカ</p> 

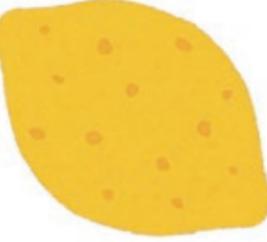
まる (小) みどり くだもの	まる (小) あか やさい	まる (中) みどり くだもの
まる (中) しろ やさい	まる (中) オレンジ くだもの	ほそながい みどり やさい
まる (小) しろ やさい	まる (中) きいろ くだもの	ほそながい みどり やさい
まる (大) くろ やさい	まる (中) ちやいろ やさい	ほそながい むらさき やさい

セロリ 	そらまめ 	だいこん 
チンゲンサイ 	つくし 	とうもろこし 
なし 	にんじん 	ねぎ 
のざわな 	バナナ 	ピーナッツ 

ほそながい しろ やさい	ほそながい みどり やさい	ほそながい みどり やさい
ほそながい きいろ やさい	ほそながい ちやいろ やさい	ほそながい みどり やさい
ほそながい みどり やさい	ほそながい オレンジ やさい	まる (中) きいろ くだもの
ほそながい ちやいろ やさい	ほそながい きいろ くだもの	ほそながい みどり やさい

ぶどう 	へちま 	ほうれんそう 
マンゴー 	ミニトマト 	むらさききやべつ 
メロン 	もやし 	やまいも 
ゆず 	ようなし 	らっきょう 

ほそながい みどり やさい	ほそながい みどり やさい	まる (小) むらさき くだもの
まる (大) むらさき やさい	まる (小) あか やさい	だえん  オレンジ くだもの
ほそながい ちやいろ やさい	ほそながい しろ やさい	まる (大) みどり やさい
まる (小) しろ やさい	だえん  きいろ くだもの	まる (中) きいろ くだもの

りんご 	ルッコラ 	レモン 
わさび 		

だえん○ きいろ くだもの	ほそながい みどり やさい	まる（中） あか くだもの
		ほそながい みどり やさい



写真出典：海外移住資料館（2022年度 JICA 横浜教師国内研修参加者撮影）

名前 _____

「フードバスケット」について

◎仲間はずれになって「ひとりぼっち」になったとき、どのような気持ちになりますか？

◎ _____ が「ひとりぼっち」になったとき、どうやって仲間に入れましたか？

◎「ひとりぼっち」をつくらないために何が大切だと思いますか？

「ビッグファミリー」について

◎日本に関係のある人は何人いると思いますか？

◎なぜ、そう思いましたか？

◎どのような人たちで集まったグループだと思いますか？

◎今日の振り返りをしましょう（気づき、学び、感想）



2022年度教師国内研修参加者 [撮影：2022年教師国内研修事務局]

実践授業報告

※この報告書に掲載されている写真は、教師国内研修参加者の責任の基に提供されたものを使用しています。
※参加者の先生、児童生徒さんの原文をいかして掲載しております。表記などにばらつきがありますが、ご了承ください。

井上 奨太

学 校 名 川崎市立 上作延小学校
 担 当 教 科 等 道 徳
 対 象 学 年 (人 数) 小 学 校 1 年 (2 7 名)

① 本研修参加の動機

以前、JICA 横浜で研修を受け、開発教育や多文化共生などの重要性を改めて知ることができました。本研修を経験し、より一層理解を深め、実践に役立てていきたいです。持続可能で、誰ひとり取り残されことなく、尊重させる社会を目指していきたいため本研修に参加をしました。

② 日系人・日本人移住者から学んだこと

日系人の定義は、現実には日本の文化を実践している人が日系人で、血縁ではないという流れになっているということ。そして、見た目では判断できない。また、本人の意思を尊重し、オリジナルのアイデンティティがあるということ学びました。

③ 本研修参加前と後のご自身の変化

一番、文脈力が高まりました。出来事の背景にはなにがあるのかという物事の考え方ができるようになりました。また、「説得ではなく、納得」いうことを常に考えながら子どもたちのサポートをできるようになりました。

④ 本研修からの最大の収穫は？

「Q=A 質問こそが答え」ということを学ぶことができたことです。6人のメンバーとスタッフ含めてみなさんに出会うことができたことです。また、前年度の方ともつながることができて本当によかったですし、今後もさらに人との出会いを大切にしていきます。

⑤ その他、本研修に参加した感想

国内教師研修に参加することができてより一層、多文化共生、国際理解教育、開発教育について深めることができ、本当に良かったです。さまざまな学びを得ることができました。機会を用意してくださり、ありがとうございました。

実践者	氏 名	井上 奨太	学 校 名	川崎市立 上作延小学校
	担当教科等		対象学年(人数)	1年1組(27名)
	実践年月日もしくは期間(時数)	2022年9月～11月(3時間)		

【 実 践 概 要 】

【1】実践する教科・領域

道徳科

【2】単元(活動)名

みんなでなかよく 【内容項目(9)】「友情・信頼」

【3】授業テーマ(タイトル)と単元目標

〈授業テーマ〉「ひとりぼっちをつくらない」

〈単元目標〉ひとりぼっちをつくらず、友だちに対して、自分はどんなことができるか考えている。

〈関連する学習指導要領上の目標〉【B主として人との関わりに関すること】
 【友情、信頼 (9)友だちと仲よくし、助け合うこと】

【4】単元の評価規準

【道徳的価値の理解を基に自己を見つめる】

ひとりぼっちになった時の寂しさや、友だちと一緒にいてよかったと思う経験はあるか、友だちにどんなことをしたり、してもらったりしているか振り返っているか。

【多面的・多角的に考える】

友だちと関わる中で、ひとりぼっちになっている友だちにどんなことをしたり、してもらったりしていることよさについて考えを広げているか。

【道徳的価値を基に自己の生き方について考える】

自分はひとりぼっちになっている友だちになにができるか考える。視点や考え方を転換すればひとりにならないと気づいている。ひとりぼっちの友だちの気持ちを考え、自分にできることを考えようとしているか。

【5】単元設定の理由・単元の意義(児童/生徒観、教材観、指導観)

【単元設定の理由】

ひとりぼっちになりたくなくなってしまっている友だちの気持ちを考え、自分にできることは何かを考えながら行動しようとする姿を育ませたかったためです。また、ひとりぼっちになりたくなくなってしまっているのが自分だったらどんな気持ちになるのか考えさせたい。



そして、いろいろな立場の人を、自分事で考えられるように仕掛けをすることで、普段の学校生活でもひとりぼっちになりたくなくてなっている友だちにできることを考えてほしいと願っています。

【児童観】

学校生活に慣れ、友達関係が深まってきた。しかし、まだ自己中心性が残っている。そのため、友達の立場を理解したり、自分と異なる考えを受け入れたりすることが難しい場面がある。加えて、つい自分の都合を優先してしまったり、興味をそそられるほうに傾倒してしまったりする場面が時々見受けられる。その一方で、友達と仲良くしたい、一緒に遊びたいという思いも強い。

【指導観】

「フードバスケット」を通して、ひとりぼっちになりたくなくてなっている友だちに対して、自分はどんなことができるか考えられるようになってほしい。また、見た目だけで判断するのではなく、先入観をもたないこと、それぞれのアイデンティティーとそれぞれの良さを受け止め、尊重してほしい。見方や視点を転換すれば、同じ共通点があることに気づき、今後の生活をより充実したものにしてほしい。

【6】単元計画(全3時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	せかいのこどもたち	世界の子どもの日常を写した写真を通して、他国の生活の様子について考えさせ、さまざまな国の人々や文化に親しもうとする心情を育てる。	①他の国について、知っていることを発表する。 ②本時のめあての確認 ③「せかいのこどもたち」を読んで話し合う。 (1) みんなの生活や遊びと似ているところはありますか? また、違うところはあるですか? (2) <u>世界の子どもたちと、どんなことをいっしょにしてみたいですか?</u> ④ふりかえり	■教科書 ■写真
2	かんぼじあの子どもたち	カンボジアの子どもたちの様子について考えさせ、カンボジアの人々や文化に親しもうとする心情を育てる。	①本時のめあて ②子どもたちがものを売る生活をしているかについて考える。 ③ <u>現地のガイドさんに「買ってはいけない」と言われたのはなぜかということについて考える。</u> ④ふりかえり。	■写真 ■実物 (ミサンガやキーホルダー、扇子など) ■ワークシート
3 本時	みんななかよく～ひとりぼっちをつくらない～	自分と違う考えや価値観があることに気付く。	①本時のめあて ②どんなグループが作れるか考える。 大きさ、色、形、種類、味 ③1つにできるグループについて考える。 ④実生活に置き換えて考える。	■食べ物カードの活用 ■ワークシート

【7】本時の展開(3時間目)

本時のねらい 友だちに対して、自分はどんなことができるか考える。

過程・時間	教員の働きかけ・発問 および学習活動・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入	○本時のめあてを確認する。 きょうりよくして、ひとりぼっちをつくらないようにしよう		食べ物カード(27枚)
(3分)	○ルールを確認する 「ゲーム中にひとりぼっちをつくらないこと」	■カードを配る。 ■特徴が2つ以上重複するようにカードを準備する。	■スイカ ■ジャガイモ ※ひとりぼっちになる食べ物カード
展開	○野菜と果物でグループを作る。 野菜と果物に分かれてみよう。 ■野菜:16人、果物:11人	■グループができたら、自分の野菜を紹介し、手拍子リレーをする。 ■うまく入れない児童がいたら、適宜支援をする。	
	○同じ形同士でグループを作る。 同じ形をしている食べ物で分かれましょう。 ■細長い:10人 丸(小):4人 丸(中):8人 丸(大):3人 楕円:2人		
(20分)	○同じ色同士でグループを作る。 同じ色の食べ物で分かれましょう。 ■緑:7人 黄:6人 白:3人 赤:2人 紫:3人 オレンジ:3人 茶:1人 黒:1人	■スイカとじゃがいもはひとりぼっちになるようにする。	
	○食べられるものでグループを作る。	■みんな違うカードだけど、みんなであつに集まったことを確認する。	
まとめ (22分)	○振り返る。	■一人ぼっちの子がいたら、どんな声かけをするかを考えさせる。	■ワークシート

【8】評価規準に基づく本時の評価方法

- ・友だちに対して、自分はどんなことができるか考える。(発言・ワークシート)
- ・ひとりぼっちの友だちが仲間に入れるように、見方や考え方を転換し、行動することの良さについて考えている。(発言、ワークシート)

【9】学習方法及び外部との連携

なし。

【10】学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

職員研修で「レヌカの学び」の実践。

【自己評価】

【11】苦労した点

- ・ワークシートのイラスト。
吹き出しを入れて想像して書きやすいように工夫したが、男の子、女の子のイラストで児童は書きづらくさせてしまったこと。

【12】改善点

- ・野菜と果物に分かれた時と同じ形同士でグループを作った際に、グループごとで人数を違うことを伝えるために各グループ人数を数えて伝えたが、人数の多い方が勝ちという考え方が一部の児童が発言する様子が見られた。そのときに、「勝ち負けをしているわけではないよ。」と伝え、以降は声かけを行うのをやめた。
- ・このワークショップだけでなく、普段の学校生活や他のワークショップとも連動して行うことで、より一層「多文化共生」の意識を高められると感じた。

【13】成果が出た点

- ・本時のめあての「ひとりぼっちをつくらない」を野菜や果物、同じ形、色でグループに分かれる前に毎回繰り返し、児童に繰り返し確認したことで、児童は、めあてを意識した行動につながった。また、ふり返りもジブンゴトとしてワークシートに書く際に自分の考えをしっかりとって考えている姿が見られた。
- ・同じ色同士で別れる際に、「スイカは、黒じゃなくて緑だからおいで。」「スイカは切ったら赤色だからおいで。」や「じゃがいもは黄色に似ているからこっちにおいでよ。」など、一人ぼっちになりかけていた二人の児童へ周りの児童たちが声かけを進んで行う姿を見られて、ねらいにそったワークショップになった。

【14】学びの軌跡(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

児童が書いたワークシートの内容(一部抜粋)

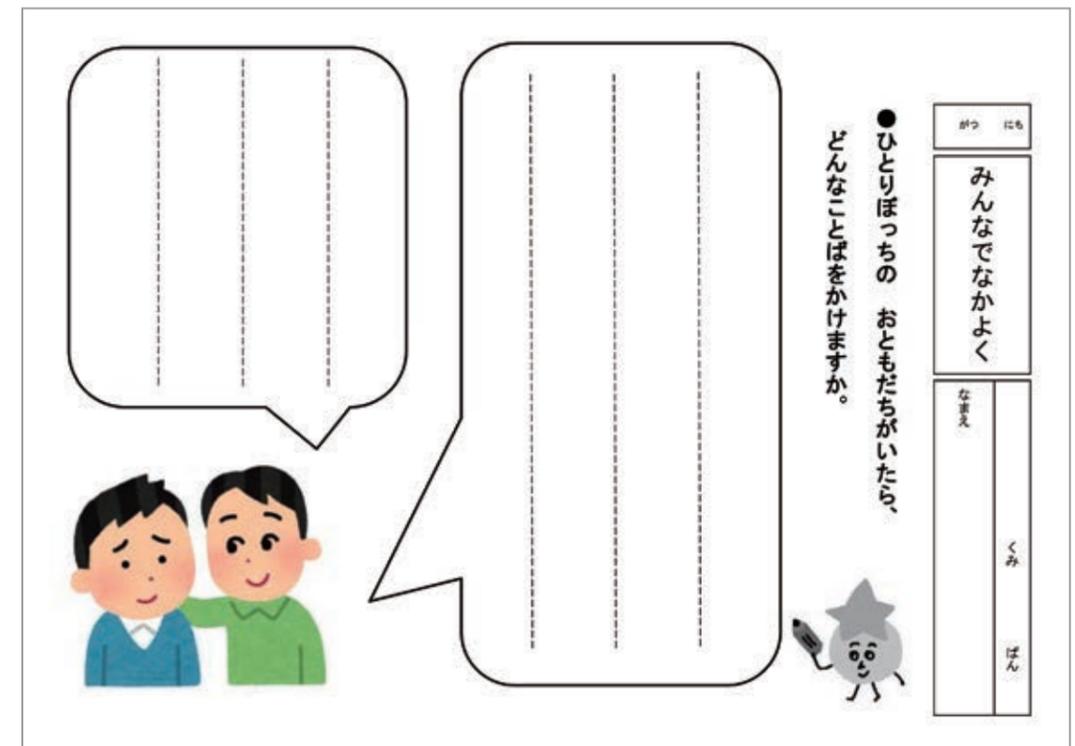
- ・ひとりぼっちにさせてごめんね。いっしょにあそぼう。もっとはやくきづいてればよかった。
- ・いっしょにいこうよ。
- ・だいじょうだよ。なかまにいれてあげるね。
- ・さみしくない?だいじょうぶ?
- ・いっしょにあそぼう。なにであそぶ?

【15】授業者による自由記述

「Q = A 質問こそが答え」、子どもに投げかける言葉を意識しましょう!

イチからみんなで一つのを創り上げ、自分では思いつかないアイデアが出てきました!
他校種の先生方がいたので、よりシンプルでどの校種でもできるワークショップができました!
ぜひ活用のご検討よろしくお願いたします!
ご不明な点がありましたら、なんでもおっしゃってください!

添付資料: 1. ワークシート



◎授業実践を経て、 学習者(児童・生徒)の 変化、反応

ひとりである児童にさまざまな児童が声かけをする場面が見られるようになりました。また、自分の思いだけを伝えるだけでなく、相手の思いを尊重する児童も見られるようになりました。

松田 明子

学 校 名 | 三浦市立 初声小学校
 担 当 教 科 等 |
 対 象 学 年 (人 数) | 4年 (35名)

① 本研修参加の動機

人種、国籍、出自、文化、性別など異なる背景が要因となって生まれる社会の課題から共生社会について考えるという単元を構想し、子ども達と授業をする前に自分自身が多文化共生についてもっと深く学びたいと考えました。

② 日系人・日本人移住者から学んだこと

日本人としての価値観、文化などを受け継いでいながら、新しいものを取り入れミックスされた文化を作った不易流行の精神。アイデンティティーは変化することもあり、『自分で自分を定義する』という概念は心に深く残りました。

③ 本研修参加前と後のご自身の变化

無意識に行われる排除は気づきにくく共生は簡単ではないからこそ、思い込みがないか自分に問い続け、それぞれの人が持つ背景を見つめ一人一人を大切に、人と関わっていきたくて思いました。

④ 本研修からの最大の収穫は？

一つのテーマごとに深く学ぶことが多く、自分のこれまでの認識や価値観を見つめ直すことができたことです。また一緒に悩みなからワークを作った仲間から多くの刺激を受け、教材、単元や授業を作っていく面白さを改めて感じられたことです。

⑤ その他、本研修に参加した感想

面白い人、面白いことに会い、多くの刺激を受けて、たくさんエネルギーをもらいました。それはもっと学びたいというモチベーションにもつながり、研修に参加して本当によかったです。

実践者	氏 名	松田 明子	学 校 名	三浦市立 初声小学校
	担当教科等	4年担任	対象学年(人数)	4年1組 (35名)
	実践年月日もしくは期間(時数)	2022年11月～12月 (9時間)		

【 実 践 概 要 】

【1】実践する教科・領域

総合的な学習の時間

【2】単元(活動)名

「シュウマイから始まるみんなで生きる社会」

【3】授業テーマ(タイトル)と単元目標

〈授業テーマ〉「国際理解・多文化共生、共生社会について考える」

〈単元目標〉 実社会の課題に気づくことで、自分自身を取り巻く身近な社会について見つめ直し、また未来の社会の担い手として共生社会に必要なことを考える。

【4】単元の評価規準

- ① 知識及び技能 探求的な学習の過程において課題解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探求的な学習のよさを理解するようにする。
- ② 思考力、判断力、表現力等 実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- ③ 学びに向かう力、人間性等 探求的な学習に主体的・共同的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参加しようとする態度を養う。

【5】単元設定の理由・単元の意義(児童観、教材観、指導観)

【単元設定の理由】

4年社会では「わたしたちの県のまちづくり」という社会の単元で国際交流のさかんなまちとして横浜市を取り上げる。そこでは国際交流を進めていくために大切なことについて考える学習もある。しかしそこには一時的に来日した外国の方へのおもてなし、配慮という視点が中心である。そこから一歩発展した内容を取り上げ、在日外国人との共生という視点も入れて学習させたい。多文化共生、さらにどの人も大切にされみんなで生きる社会とはどのような社会なのかを考えさせたい。学校は子ども達にとって初めての小さな社会である。実社会の課題に気づくことで、自分自身を取り巻く身近な社会について見つめ直し、また未来の社会の担い手としてみんなで生きる社会に必要なことを考えるきっかけとしたいと本単元を設定した。



【単元の意義】

身近なシウマイ弁当について調べることから、歴史的に在日外国人が多くいることを知り、そして、今起きている人種、国籍、出自、文化、性別、宗教、思想、健康（障がい）・・・など異なる背景が要因となって引き起こされている実社会の現状を知らせたい。多文化共生の視点から始めた学習は、誰もが大切にされ生き生きと暮らせる共生社会をめざすことにつながると考える。

【児童／生徒観】

三浦市に育つ子どもたちは、観光で中華街に行った経験や隣の横須賀市には米軍基地があることから、在日外国人がいることは知っている。しかし、外国の方との関わりは少なく、在日外国人が抱える課題について多くを知らない。

子どもたちは困っている友達の手助けを自然に行動できる素直で優しい子が多い。ほとんどの子ども達はせまい社会の中で生きていて、多様な背景を持つ人がいることに気づいていない。社会には多様な背景を持ち困っている人がいることを知り、自分にもできることを考えてほしい。

【指導観】

社会には人種、国籍、出自、文化、性別、宗教、思想、健康（障がい）・・・など自分と異なる部分を持つ人、多様な背景を持つ人が存在すること、まずそれを知ることから始めていく。そこから多文化共生、さらにどの人も大切にされみんなで生きる社会とはどのような社会なのかを考えさせたい。学校は子ども達にとって初めての小さな社会である。実社会の課題に気づくことで、自分自身を取り巻く身近な社会について見つめ直し、またみんなで生きる社会に必要なことは何かを考えられる未来の社会の担い手となってほしいと考える。

【6】単元計画(全9時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	つかむ	■シウマイ弁当がなぜ横浜の駅弁になっているのか疑問を持つ。	■ご当地弁当クイズをする。 ■各地の駅弁が特産品を使っていることを知る。 いかめし、松坂牛弁当、かに弁当など ■シウマイが駅弁になっている理由を予想する。	■ワークシート ■地図帳
2		■シウマイ弁当は外国(中国)から来たものを取り入れてきたことを知る。	■現在では横浜の駅弁として定着しているシウマイ弁当の始まりについて調べる。 ■中華街の焼売から着想を得たことを知る。	

3	深める	■横浜は外国とのつながりのなかで発展してきたまちだと知る。	■横浜に中華街がある理由について調べる。	■在日外国人の人数のグラフなど
4		■在日外国人の課題について知る。	■ALT(オーストラリア人)へのインタビューから在日外国人の課題について知る。 言葉がわからない 差別される・・・	■在日外国人の方へのインタビュー(本校ALT)
5		■出自で判断されない大切さに気付く。	■野菜の原産国クイズをする。 ■好きな野菜を紹介し合う。 ■原産国で判断するのではなく、そのものの良さで判断したことを確認する。 ■前時を振り返りながら、実社会に置き換えて考えてみる。	■野菜果物カード
6		■自分らしく生きるために必要なことについて考える。	■子ども達にも人気のあるキャラクターが、恐竜であることを隠して生きていることについて考える。 ■これまでの学習を振り返りながら、実社会に置き換えて考える。	■キャラクターぬいぐるみ
7	本時	■一人ぼっちにしない大切さについて気づく。	■どんなグループが作れるか考える。 ①種類(野菜・果物) ②形(楕円・丸・細長い) ③色(黄色・赤・緑・白) ■仲間外れができる。スイカ(黒)ジャガイモ(茶色) ■全部が共通する点を見つけ、一つのグループになるように考える。 ■写真を見る。 ■実社会に置き換えて考えてみる。	■野菜果物カード ■海外移住資料館の日系ファミリーの写真
8	活かす 振り返る	■一人ひとりが大切にされる存在であると気付く。	■社会には出自、文化、性別、宗教、思想、健康(障がい)・・・など自分と異なる部分を持つ人、多様な背景を持つ人が存在することを知る。	■新聞記事など
9		■みんなで生きる社会に必要なことを考える。	■自分が知ったこと、自分の考えをまとめる。	

【7】これまでの授業の展開(5時間目)

本時のねらい 出自で判断されない大切さに気付く。

過程・時間	教員の働きかけ・発問 および学習活動・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
[導入] 5分	<ul style="list-style-type: none"> ■前時までの学習を振り返る。 ■本時のめあてを確認する。 		
[展開] 25分	<ul style="list-style-type: none"> ■野菜の原産国クイズをする。 ■身近な野菜が多く原産国であることを知る。 ■その中で好きな野菜を紹介し、その理由も言う。 <p>「〇〇の国の野菜だから。」という好きな理由について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">出身国・出身地で判断されることについて考えよう</div>	<p>日本を含む多くの原産国の野菜果物カードを用意する。</p> <p>紹介の仕方を見せる。</p>	<p>ワークシート</p> <p>野菜果物カード</p>
[まとめ] 15分	<ul style="list-style-type: none"> ■原産国で判断するのではなく、そのものの良さで判断したことを確認する。 ■人間で置き換えて考えてみる。 ■今日の振り返りをする。 		

【8】評価規準に基づく本時の評価方法

- ・原産国クイズ、好きな野菜紹介を通して、出自に判断されない大切さに気付いていたか。(ワークシートの記述、発言)

【7】本時の展開(7時間目)

本時のねらい 野菜ゲームから一人ぼっちにしないために多様な見方や他者を認める大切さに気付く。

過程・時間	教員の働きかけ・発問 および学習活動・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
[導入] (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ■前時までの学習を振り返る。 		
[展開] (30分)	<ul style="list-style-type: none"> ○一人ぼっちを作らないでいるいろなグループを作ろう。 <p>①種類(野菜21・果物14)</p> <p>②形(楕円4・細長い12・丸大3・丸中7・丸小6)</p> <p>③色(黄7・赤6・緑5・白4・ルビ5・紫6・黒1・茶1)</p>		

<ul style="list-style-type: none"> ■仲間外れができる。 スイカ(黒)ジャガイモ(茶色) ○仲間外れを作らないためにどうしたらいいか考える。 ○どうしたらみんな一つのグループになれるかな? <p>畑でとれるもの 食べ物...</p>	<p>カードの配布を工夫する。</p> <p>話をしないで活動させる。</p> <p>仲間ができたなら座らせる。</p>	<p>野菜果物カード</p> <p>ワークシート</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;">一人ぼっちにしないために何が大切だろうか。</div>			
<p>日系ファミリーの写真を見る。</p> <p>○日本に関係ある人は何人いるかな?</p> <p>なぜそう思ったのかな?</p> <ul style="list-style-type: none"> ■8人 10人... ■見た目が日本人ばい <p>○どんなつながりで集まったグループかな?</p> <ul style="list-style-type: none"> ■友達 ■家族 ■仲良し 		<p>日系ファミリーの写真</p>	
[まとめ] (10分)	○今日のふりかえり		

【8】評価規準に基づく本時の評価方法

- ・野菜ゲームを通して、一人ぼっちにしないために多様な見方や他者を認める大切さに気付いていたか。(ワークシートの記述、発言)

【9】学習方法及び外部との連携

- ・在日外国人の困り感について調べている際に、インターネットからの情報だけでなく、本校のALTである中国系オーストラリア人の先生に直接インタビューした。それによって実感を持って課題を知ることができた。
- ・中華街に行ったことのない児童のために、バーチャルで街歩きをした。中国語の看板の中華料理の飲食店や土産物店が多く並び、観光地であると同時に、中華街には寺(廟)や学校があることを知り在日中国人の生活の場であることも知ることができた。

【10】学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

- ・本時の研究授業を実践する際に校内の職員にも参観を呼びかけ、多文化共生の視点を持った単元作り、内容、方法など実践について周知した。
- ・野菜果物カードを使ったワークを他クラスでも実施した。

【自己評価】

【11】苦勞した点

野菜果物カードのワークを使った子どもの学習活動を、学びにどうつなげるようにしていくか工夫が必要だった。また「国際理解教育・多文化共生の視点」を取り上げた学びが子ども達から遠いものにならないように、シウマイ弁当、中華街、人気キャラクターなど子どもにとって身近なものを取り上げて調べたり、考えたりさせた。そして探求的な活動の中で本ワークを活用し、実社会に結び付けて考えさせていく単元にした。

【12】改善点

本ワークは発達段階、校種、地域、それぞれの持つ多様な背景を考慮しながら進め、また授業者がねらいをはっきりと持ち展開していく必要がある。単元や授業の中で、互いに学びを深めるために子ども同士の話し合いの時間も十分にとるとよい。

【13】成果が出た点

「総合的な学習の時間」として子ども達が探求的な学習の中で実社会の課題に気づき、共生社会について考えていくことを大切に。単元を通して「誰一人取り残さない・多文化共生」という視点を持って学習をしていたので、野菜・果物カードを使ったワークでは「これって外国人の差別のことと同じだ。」と子ども達が実社会の課題と結び付けて今までの学習を深めるものになった。このワークの体験を踏まえ、さらに日系ファミリーの写真について考えることによって、違いを超えたところにある共生の大切さについて意識することができた。

また、本時の後、クラスの児童がワールドカップで選手の人権問題に対する抗議行動について調べ、「ワールドカップを通して世界にはいろいろな差別があるとわかった。」という意見が出てきた。日本で外国人という理由などで家を借りるのが難しい人があるという新聞記事や海外の女子大学進学禁止のニュースなどについても考えた。世界の中にも、差別があったりや人権が守られないことがあったりすることを知り、子どもたちが学習していく中で、「〇〇だからダメ、っておかしいよ。」「〇〇だからしないといけないっておかしいよ。」「出身や見た目で判断するのはちがうよね。」「当たり前」と思って通り過ぎていたことにも「それは違うんじゃない？」と疑問を持ち、「一人ひとりが大切にされること」が必要だと気づききっかけになった。

【14】学びの軌跡(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

「ひとりぼっちだと悲しいし心細いと分かった。」「共通点がなくとも相手を知ろうとする。」「見た目など関係なく、いいところがあればOK!」「みんな違ってみんないい!」「ちがうことがいい。」「個性をみんなで大事にしている。」「平等が大事。」「差別を絶対にしてはいけない。」「世界にはいろいろな人がいる。みんなちがくてもみんないいしょ。」「人をぜったいにさべつやひとりぼっちにさせないでそういう人をたすける。」など意見が出た。

【15】授業者による自由記述

「何でもバスケット」は、いろいろなお題を出してそれに当てはまる人が席を移動するゲームである。今年度、子どもたちが企画したお楽しみ会で実施した。子どもたちは視覚的なことを中心にお題を出しがちであり、「男の子!」「髪の毛が黒い!」・・・差別的な意識はないが、性別や見た目についてのお題を出すことがあった。「朝ごはんパンを食べた人!」「水色が好きな人!」・・・どんな人も当てはまる可能性がありお互いのことを知ることができるお題にしようと話をした。自分では気を付けているつもりでも、どこかで人を分類し偏見を持ってしまうということを自覚する必要があると感じた。教師自身が無意識にダブルスタンダードで接していたり、「これが当たり前だ。」という価値観を植え付けていたりすることもある。

この研修やワーク・授業作りの中で自分自身の人権感覚や問題意識を省みるいいきっかけになった。肌で感じる差別はわかりやすいが、無意識に行われる排除は大人も子どもも気づきにくい。そして様々な背景によって排除される立場にいる人がいることを知らないままに過ぎることも多い。「誰一人取り残さない・多文化共生」の視点を持ってワークや授業を実施して、この学びを日常生活で活かしていくことの大切さを感じた。また、このような視点を持って学び続けることで自分自身を取り巻く社会について見つめ直し、共生社会に必要なことを考え続けることが大切であると感じた。

添付資料:

1. 野菜・くだもの原産国クイズ
2. キャラクターワークシート
3. 野菜・くだものゲームワークシート

◎授業実践を経て、 学習者(児童・生徒)の 変化、反応

「世界にはいろんな人がいる。」「ちがうことがいい。」「出身地や見た目判断しない。」「共通点がなくとも相手を知ろうとする。」「個性をみんなで大事にする。」「絶対にさべつしないのでひとりぼっちにさせないですける。」という思いが生まれました。



村越 都季恵

学 校 名 藤沢市立高砂小学校
 担 当 教 科 等
 対 象 学 年 (人 数) 1年(28名)

① 本研修参加の動機

単純に多文化共生について学びたいと思ったからです。「正しい情報や、異なる文化を受け入れていくことの、大切さと難しさを深く考える子どもになってもらいたい」「誰もが安心して通える学校にしたい。」という気持ちは常にあったので、この研修で自分の成長にもなると思い応募しました。

② 日系人・日本人移住者から学んだこと

ブラジルから日本に移住してきた日系の方と話す機会がありました。あなたは日本人？ブラジル人？と言われると「どちらもなんか違う。ハーフも何か違う。私は日本とブラジルのダブルです。」と言っていたのが、二つの国のアイデンティティも持ち合わせているという意味で、とても納得できました。

③ 本研修参加前と後のご自身の変化

自分の見方を広げられるようになりました。答えは一つではないと思えるようになりました。校種の違う先生の話を受けて刺激を受け、もっと努力しようと思え、自分に足りないことは何か、具体的に考えるようになりました。そしてやっぱり教師という仕事が好きだと思えました。

④ 本研修からの最大の収穫は？

年齢も校種も全く違う中で同じ目標をもって集まったメンバーに出会えたことです。自分の見方や考え方を確実に広げられたと思います。おかげで一人では絶対につくりだせないワークショップができました。同じ教師としてこんなにも尊敬できる素敵な仲間に出会えたことに感謝しかありません。

⑤ その他、本研修に参加した感想

参加して本当に良かったです。こんなに学べる環境があり仲間がいることは本当に有難いことでした。もし悩んでいる人がいるならば「悩むよりも行動！」と伝えたいです。これからもずっと学び続けていく教師でいたいです。

実践者	氏名	村越 都季恵	学校名	藤沢市立高砂小学校
	担当教科等		対象学年(人数)	1年3組(28名)
	実践年月日もしくは期間(時数)	2022年12月6日(火)3校時 10:45～		

【実践概要】

【1】実践する教科・領域

道徳

【2】単元(活動)名

ひとりぼっちをつくらない 内容項目(9)「友情・信頼」

【3】授業テーマ(タイトル)と単元目標

〈授業テーマ〉「見方・考え方をかえればひとりぼっちはいない」

〈単元目標〉ひとりぼっちをつくらない 見た目で判断せずに一人ひとりの違いを認める

【4】評価の視点

【道徳的価値の理解を基に事故を見つめる】

ひとりぼっちになった時の寂しさや、友だちと一緒にいてよかったと思う経験はあるか、友だちにどんな事をしたり、してもらったりしているか振り返っている。

【道徳的価値を基に事故の生き方について考える】

自分はひとりぼっちになっている子に何をすることが出来るか考える。見方・考え方をかえれば一人にはならないと気づいている。友だちの気持ちを考え、自分にできる事を行動しようとしている。

【5】単元設定の理由・単元の意義(児童/生徒観、教材観、指導観)

【単元設定の理由】

一人になっている友だちの気持ちを考え、自分にできることは何か考え行動しようとする姿を育む。また一人になっているのが自分だったらどんな気持ちになるか考え、いろいろな立場の人を、自分事で考えられるようにすることで、実生活の場面でも一人になっている人にできることを考えてほしい。人間も見た目だけではわからないように野菜と果物も見た目だけではわからないことがあることを表すカードゲームを通して、見た目だけで、判断せずにいるんな見方・考え方があることに気づかせたい。

【単元の意義】

同じ仲間が集まれる安心感や、ひとりぼっちになった時の寂しさを感じることで、いろいろな立場の人がどんな気持ちになるかを考えるきっかけになる。野菜も人間も見た目だけで区別しないような気持ちを育てるきっかけになる。

【児童観】

4月の入学当初は新しいクラスなじめず、対教師の関わり方が多く友達とのつながりが希薄な児童が多くいた。泣いて困っている子がいてもどうやって助けたいのかわからない児童もいた。元気で活発、大きな声で発表できる児童もいれば、みんなの前で、小さな声しか出せず、緊張が非常に強い児童もいる。クラス全体で遊んだり、毎日の授業の中で交流を増やしたりする中でだんだんと友だちが増え、休み時間の遊ぶ様子を見ていると横のつながりが広がったと感じる。1年生の児童の仲を隔てるものは何もなく、見た目で差別したりすることはない。ただ見た目ではわからない困り感や、違いを認め合える心が実際にどのくらいあるのかわからない。相手の立場や気持ちを思うことの大切さ、自分の事を大切にすることの大切さも考えてほしい。

【指導観】

「野菜・果物カードゲーム」と「ピックファミリー」の写真を通して見た目だけにとらわれないこと、それぞれみんな違うけども必ず良さがあるという事に気づいてほしい。違うグループにいた野菜も、見方をかえれば、同じグループになれる、面白さに気づいて普段の生活でも友だちと対立してしまったり、人間関係に悩んだ時などに見方を少し変えると感じ方が全く違うことに気づいてほしい。

JICA 国内研修を通して、日系人のこと、日本に移住してきた外国人のこと、SDGs のことなど様々な事を学び、生の声を聞かせてもらうチャンスがあった。人それぞれ違いは必ずあるけども、互いのアイデンティティを尊重すると同時に自分の事を大切にすることが、誰もが安心して豊かに暮らせる多文化共生を実現するために大事だと感じている。今回の授業が少しでも子ども達の視野を広げるきっかけになればと思っている。

【6】単元計画(全2時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1 本時	ひとりぼっちをつくらない	見方・考え方をかえれば一人にはならないと気づく	野菜・果物カードを使って「ひとりぼっちをつくらない」ゲームをする。 見方・考え方を変えるとひとりぼっちにならないことを理解する。	野菜・果物カード
2	ピックファミリー	人は見た目ではわからないつながりがある事に気づく	ピックファミリーの写真を見て、日本につながりがある人は何人いるか考える。 全員日本につながりを持っている一つの家族という事を教え、感じた事をふり返り共有する。 ※野菜・果物カードでも見た目では判断できなかったことがあることに気づかせる。	ピックファミリー

【7】本時の展開

本時の目標 見方・考え方をかえれば一人にはならないことに気づく

過程・時間	教員の働きかけ・発問 および学習活動・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
[導入]	①本時のめあてを確認する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">ひとりぼっちをつくらない</div> ②野菜・果物カードを配り、ゲームをすることを伝える。 ここでも「ひとぼっちをつくらない」ことを確認する。 「今から言うグループになって下さい。」 ③野菜と果物のグループになる 野菜16 果物12	■ひとりぼっちになるとどんな気持ちになるか聞く。 ■グループが出来たら円になって座る。自分の野菜や、果物の名前を一人ずつ言う。	野菜果物カード
[展開]	④同じ形でグループになる ・細長い12 ・丸(小)4 ・丸(中)6 ・丸(大)3 ・楕円3 ⑤同じ色でグループになる ・緑8人 ・黄6人 ・白3人 ・赤3人 ・紫3人 ・オレンジ3人 ・茶色1人 ・黒1人 ⑥みんなで一つのグループになるにはどうしたらいいか考えさせる	■すいかとじゃがいもは1人。 ■食べ物 見方・考え方をかえればみんなで一つのグループになれたことを確認する。	ふり返りシート
[まとめ]	⑦振り返る		

【8】本時の評価

・ひとりぼっちの子が仲間に入れるように、見方や考え方を変えて行動することの良さについて考えている。(発言)

【9】学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

藤沢市小学校教育研究部会国際教育部会で JICA 国内研修の内容を伝えた。

【自己評価】

【11】苦労した点

小学1年生にこのゲームを理解して現実の人間に置き換えさせることはとても難しかった。カードの中の話で終わってしまわないようにするためにどのようなワークシートや発問を用意すればいいか工夫が必要だった。

また、教師の押し付けにならないようにすることも工夫が必要だった。なぜひとりぼっちをつくらないことが大事かを子どもの意見から出させることで、カードゲームをする時に子ども達は一人ひとり自分事になって動くと感じた。

【12】改善点

最後に、「どんな言葉をつかってグループをつくったらみんな一つのグループになれるかな？」という課題に対して、なかなか「食べもの」という言葉はでなかった。それは教師の発問が足りなかったと感じている。また一つにまとまる良さもあまり感じる事が出来なかった。ばらばらなチームにいた友達が同じチームになれることがほっとする安心感や、嬉しさに繋がるように授業後の指導も欠かせないと感じた。2時間目に扱ったビッグファミリーの写真と1時間目に扱ったカードゲームの関連が弱かったのももう少しわかりやすく伝えられるといいと思った。

【13】成果が出た点

今回ひとりぼっちになった児童Aが、「幼稚園の時にひとりぼっちだった記憶を思い出し悲しかった。だけど今回はみんなに『ここに入っていいよ』と言われてとても嬉しかった」という感想を述べた。これは他の児童にも今までの体験を思い出させる、きっかけになった。実際体験するとこんなに悲しい気もちになると感じその後のクラスの活動でもひとりぼっちをつくらないということの大切さも感じ、互いの違いを認めるきっかけにもなったワークとなった。

【14】学びの軌跡(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

1年生なので語彙は少ないが、言葉にできなくても、カードゲームの時は行動や表情に気持ちが見られた。ふりかえりシートに書いていた内容から抜粋。

【ひとりぼっちでこまっている人がいたらあなたはどのようにしますか？】

- ・助けたい。声をかける。
- ・仲間に入れてあげる。
- ・「こっちにおいでよ。大丈夫？」と言う。
- ・友達になりたい。一緒に遊びたい。
- ・カードゲームみたいになったら一緒に考える。
- ・似ているグループに入れてもらう。
- ・他の困っている人もつれてきて友達になる。

【最後にみんなで一つのグループになったときどんな気持ちでしたか？】

- ・うれしかった。
- ・ほっとした。
- ・仲間がいると楽しい。
- ・いい気もち。いい気分。
- ・すっきりした。
- ・ひとりぼっちをつくらないというのはとても大切なことだと気づいた。

【15】授業者による自由記述

今回のワークは、「ひとりぼっちをつくらない」がテーマなので、ひとりぼっちになった児童を仲間に入れようとする姿があった。しかし現実でもしも、何か違いがあってひとりぼっちになっている児童がいた時に、同じことができるかはわからない。このワークを実生活で生かすためには、一回の授業ではなく、普段からひとりぼっちになってる子に声をかける温かいクラスづくりが必要となる。ひとりぼっちになって悲しい思いをするトラブルが起きた時や、何かの節目などにひとりぼっちになった時の気持ちをクラスで考えさせることでよい。それをやっておくと今回の授業がよりリアルに感じるのではないかと思う。たとえ小学1年生でも友だちと対立してしまった時や、人間関係に悩んだ時などに見方を少し変えると感じ方が全く違うことに気づいてほしい。

- 添付資料： 1.ひとりぼっちをつくらない：ふりかえりシート
2.ビッグファミリー：ふりかえりシート

⑥授業実践を経て、 学習者(児童・生徒)の 変化、反応

人は見た目だけでは判断できないことがあると授業で伝えていました。泣いてる子に対して、「声をかけるのも優しさ。」「声をかけずに、そっとしておくのも優しさ。」それはどちらも間違っていないとクラスの話し合いの時に自分たちで気づけた1年生を見て成長を感じました。

山本 麻衣

学 校 名 横浜市立すすき野中学校
 担 当 教 科 等 保健体育
 対 象 学 年 (人 数) 1年(137名)

① 本研修参加の動機

『みんな違ってみんないい』当たり前のように当たり前ではない現実。自分らしくいられる場所の手助けができるように、まずは、自分自身が多文化共生、国際理解教育について理解を深めたいと思い、この研修に参加しました。

② 日系人・日本人移住者から学んだこと

日系人や日本人移住者の歴史やお話を伺うことで、私たちが思っている以上に、苦勞し、努力してきた事に改めて気づかされました。今、私たちにできる事は、困り感に気づくこと、そして、自ら手を差し伸べてあげる事だと感じました。

③ 本研修参加前と後のご自身の变化

勝手な思い込みがすべてを狂わせる。まさに、この研修を受けて、自分の知っている範囲の狭さを実感しました。研修を通して、新しい発見や気づきを次に繋げていかななくてはならないと実感しました。もっと、これからも世界を広げていきたいと思いました。

④ 本研修からの最大の収穫は？

この研修メンバーに出会えた事です。年齢も校種も立場も地域も違うメンバーこそが多文化で、そこから学べた事が大きな集収穫です。この研修に参加してなければ、出会わなかったメンバーに私は心から感謝したいですし、これからも大切にしたいと思います。

⑤ その他、本研修に参加した感想

新しい発見や知らない世界を知れた研修でした。確かに日々の業務で研修に参加するにはとても、ハードルが高いと思います。ただ、それ以上に自分にとっていい経験にもなりましたし、いい自信にも繋がりました。やはり、いくつになっても学ぶ事は大切だと思います。これを、生徒に還元できるように、これで終わらないように、繋げていきたいです。

実践者	氏名	山本 麻衣	学校名	横浜市立すすき野中学校
	担当教科等	保健体育	対象学年(人数)	1学年(137名)
	実践年月日もしくは期間(時数)	2022年10月～12月(4時間)		

【実践概要】

【1】実践する教科・領域

保健体育、道徳

【2】単元(活動)名

集団や社会との関わりについて

【3】授業テーマ(タイトル)と単元目標

〈授業テーマ〉「国際理解、多文化共生を通して、共生社会について考えてみよう」

〈単元目標〉人にはいろいろな意見があることを理解し、それぞれの個性や立場を尊重しようとするを養うと共に、国際社会の一員として、日本人としての自覚を持ち、他国の文化や伝統を尊重し、共に生きる心を育てる

〈関連する学習指導要領上の目標〉

学習指導要領 中学校 第1章総則 第1-2より

学校における道徳教育は、特別の教科である道徳(以下「道徳科」という。)を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、生徒の発達段階を考慮して、適切な指導を行うこと。道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。道徳教育を進めるに当たっては、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持ち、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、平和で民主的な国家及び社会の形成者として、公共の精神を尊び、社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人の育成に資することとなるよう特に留意しなければならない。

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

上記を踏まえ、自分とは異なる生活環境や状況を知ること、広い視野を持ち多面的、多角的な考えを持ち学習を通して、理解を深める。自分事ではなく、他者にも目を向け、共によりよく生きていくための手段を見つけ、今後の学級活動や学校、社会で共生できるように養うことを目標とする。

【4】評価の視点

- ① **知識及び技能** 広い視野を持ち、多面的、多角的に考えを持ち、課題解決に必要な知識及び技能を身に付け、理解を深めるようにする。
- ② **思考力、判断力、表現力等** 自分事ではなく、他者にも目を向け、共に生きるための道徳的思考、道徳的判断力を身に付け、自分らしく表現できるようにする。
- ③ **学びに向かう力、人間性等** 学校だけではなく、世界や社会にも目を向け、主体的・共同的に取り組み、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参加しようとする態度を養う。

【5】単元設定の理由・単元の意義(児童／生徒観、教材観、指導観)

【単元設定の理由】

137人みんな違ってそれでいい。そう思うのが当然である。しかし、なかなかそうは思っても、実際は、いろんな場面で、違いを違いと認めなかったりする場面が多くみられる。ぜひ、学校だけにとらわれず、世界にも目を向けて、文化や価値観の違いがあることが当たり前であることを理解し、社会を生き抜くためにも、様々な価値観を受け入れられる生徒を育成したいと考え、本単元を設定した。

【単元の意義】

『ひとりぼっちをつくらない』考え方を変えれば、ひとりぼちは生まれえない。一人一人の個性は変わらない。

1つのグループにいるんな人がいてもいい、みんなは同じじゃなくていいということを考えてほしい。今後、学校だけではなく、世界にも同じような場面がある事を知り、目を向けてほしい。

【児童／生徒観】

入学して半年以上が過ぎ、中学生活に慣れ始めてきた。学年的には、何事にも一生懸命取り組む生徒が多く、積極的に行動する生徒が多い。しかし、元気で活発な生徒もいれば、まだ、自分の気持ちを相手に伝えられず、うまく付き合う事ができない生徒もいるように感じる。また、本校は両親が外国籍だったり、小学校まで海外で生活していた生徒や転校生、障がいを持っている生徒も在籍している。いろんな生徒がいる中で、ちゃんとお互いを理解して生活できているか、やや不安に感じる点もある。

【指導観】

相手を知ること、自分と違うことがあると気づくことを通して、それぞれの良さを再確認する。自分の観点や価値観、先入観に気づくこと、まずは疑ってみることも必要と感じた。国内研修を通して、人それぞれ違いがあることを知ることで、他者をもっと深く知り、よりよい人間関係が築け、世界がもっと広がることを知った。ぜひ、今後も生徒たちに、いろんな世界があることを教えていきたい。

【6】単元計画(全4時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	国際理解 国際貢献	【世界の人々をつながる】 山岳民族の文化を守る	【道徳】 ■民族楽器を知る ■担い手を失った伝統文化の消滅を知る ■カリンガ族について調べる ■世界とのつながりについて考える ■他国の人々のために何かしようとするとき の大切にしたいことを考える	■ワークシート ■動画 「バリンピンの音色」
2	相互理解 寛容	【ひとの気持ちが分かる 人間を目指して】 落語が教えてくれること	【道徳】 ■落語を知る ■落語の1文からいろいろな感情を理解する	■ワークシート ■DVD(柳家花緑さんのお話)
3 本時	国際理解	【国際理解、多文化共生 を通して、共生社会に ついて考えてみよう】	■アイスブレイク ■どんなグループが作れるか考える。 ①形(楕円・丸・細長い) ②色(黄色・赤・緑・白) ■仲間外れができる。 アボカド(黒) ジャガイモ(茶色) ■全部が共通する点を見つけ、 一つのグループになるように考える。 ■写真を見る。 ■実社会に置き換えて考えてみる。 ■多文化共生について理解する	■野菜果物カード ■海外移住資料館の 日系ファミリーの写真 ■スライド ■ワークシート
4	国際理解	【多様性】 よりよい暮らしを作るカギ 色んな人が暮らす 日本について いろいろな人が作った いろいろな物	■この国はどこでしょうかクイズ ■ブラジル人は誰でしょうかクイズ ■日本人は誰でしょうかクイズ ■これはどの国が作ったでしょうかクイズ ■ゲームを通して、日本にも様々な 人種や民族が暮らしている事を知る ■いろいろな商品は、日本だけではなく、 海外の助けがあって成り立つことを知る	■フォトランゲージの写真 ■ワークシート ■スライド

【7】本時の展開(3時間目)

本時のねらい

過程・時間	教員の働きかけ・発問 および学習活動・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
[導入] (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ■本時のねらい、めあての確認 めあて【ひとりぼっちにはしない】 〈アイスブレイク〉 ■野菜カード【50音に並び替え】 ■ルール確認 ①しゃべらない ②円になる ③時間制限5分 ⇒クラス対抗(出来たら座る) ■自己紹介をする 	<ul style="list-style-type: none"> ■野菜カードの使用(各クラス担任に渡し配る。)→あらかじめ一人になる生徒を確認してカードを配る。 ※カードは当日の出席者の人数で揃える。 ■野菜になりきって、自分の良いところをアピール。 ※話すのが苦手な子は、野菜だけ言うように誘導 	フード カード
[展開] (30分)	<p>〈本題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ■野菜カード【形で分かれる】 ■ルール確認 ①形はカードの裏に書かれている形でグループを作る ②制限時間は5分 ③違うクラスの人とグループを作る ④できる限り人数は多く作る。 <p>〈本題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ■野菜カード【色で分かれる】 ■ルール確認 ①色はカードの裏に書いてある色で分かれる ②5人以上 ③時間制限は5分 ④違うクラスの人となるべく 	<ul style="list-style-type: none"> ■人数が多いので、担任も一緒に参加して誘導をする。 ■移動の際は、走らない。衝突等注意する。 ■大声は出さない(コロナ対策) ■うまくグループができない場合は、教員がヒントを与えて誘導 ■大声は出さない(コロナ対策) ■じゃがいも(4人) アボカド(4人) ■5人以上になれたチームは座る。 ■なれなかった2チームに対して、全員でめあてを再度確認して、今の出来ているグループで考えてみる。 ※どうしたら仲間に入れられるか確認をする。 ⇒どうしたらいいかを生徒に発言させる。 【切ったら何色か? 共通点は何か?】 	
『みんな違ってみんないい』ひとりぼっちをつくらない大切さ。			
[まとめ] (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ■最後に、これを一つの1学年にまとめる共通点は何か確認する ■今日の振り返り ■多文化共生について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ■共通は【食べられるもの】を再確認 ■振り返りカード配布。 ■パワーポイントを使って授業内容を振り返り、多文化共生について考えさせる。 	ワーク シート
自分のまわりにでも、人との違いで困っている人はいないだろうか？			
	<ul style="list-style-type: none"> ■挨拶 ■教室へ移動 	<ul style="list-style-type: none"> ■手洗い消毒を促す ■教室で振り返りカードを記入。 (間に合わないようなら次の日の朝学活活用) 	

【8】評価規準に基づく本時の評価方法

野菜ゲームを通して、一人ぼっちにしないために他者の意見を真剣に聞き、広い視野に立っているような見方や考えがあることについて考えを深める事ができたか(ワークシートの記述、発言)

【9】学習方法及び外部との連携

本校にALTとして在籍している教員や放課後学習の日本語教師、また、海外に在籍していた生徒に直接話を聞き、困ったことや大変な事を質問した。

【10】学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

本校では、7月に人権作文や国際スピーチコンテストに参加している。今後は、JICA 職員や青年海外協力隊の方の経験談等を通して、国際理解教育に繋げていきたいです。

【自己評価】

【11】苦勞した点

本来の授業は、答えを教える授業が多いが、答えを教えないモヤモヤを残す授業を持って行くのが大変だと感じた。授業全体を通して、落としどころがはっきりしないことがわかっていても、生徒に何か心に響いてほしいと思う思いが強く、結果、どうやって進めれば良かったか、授業者にとっても難しいと感じた。

【12】改善点

- ・まとめをするために、スライド通して内容を押し付けてしまったので、もっと、生徒が疑問に残せる終わり方でまとめるようにしたいです。
- ・グループを作る際に、グループが出来ずに誤魔化そうとした生徒に対して、もっと、内容を掘り下げるべきだったと思いました。些細な行動を見逃さず、拾い上げるともっと、別な視野が広がったと思います。

【13】成果が出た点

- ・教師は思いもしない回答が出たりして、私自身も新たな発見に気づかされました。
- ・ワークシートを通して、ひとりぼっちになった気持ちを再確認しつつ、ひとりぼっちにしないためには、どうしたら良いか、何か出来るかを発見する事が出来ました。
- ・見た目で判断していた自分に気づく生徒も実在し、新たな一面に気づく生徒もいて、人との関わり方を新た発見する事が出来ました。

[14] 学びの軌跡(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

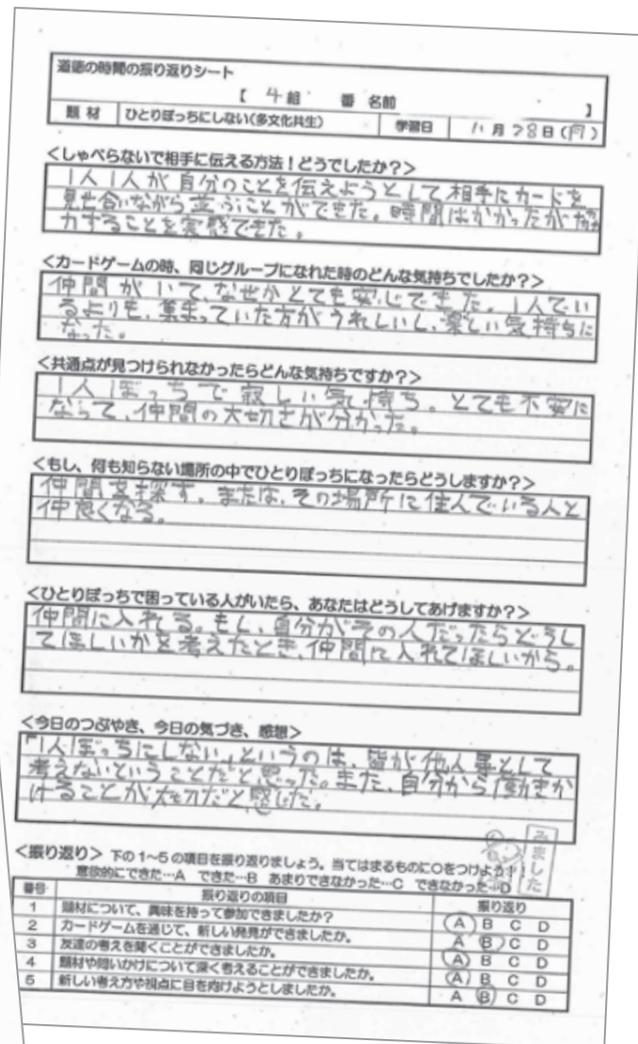
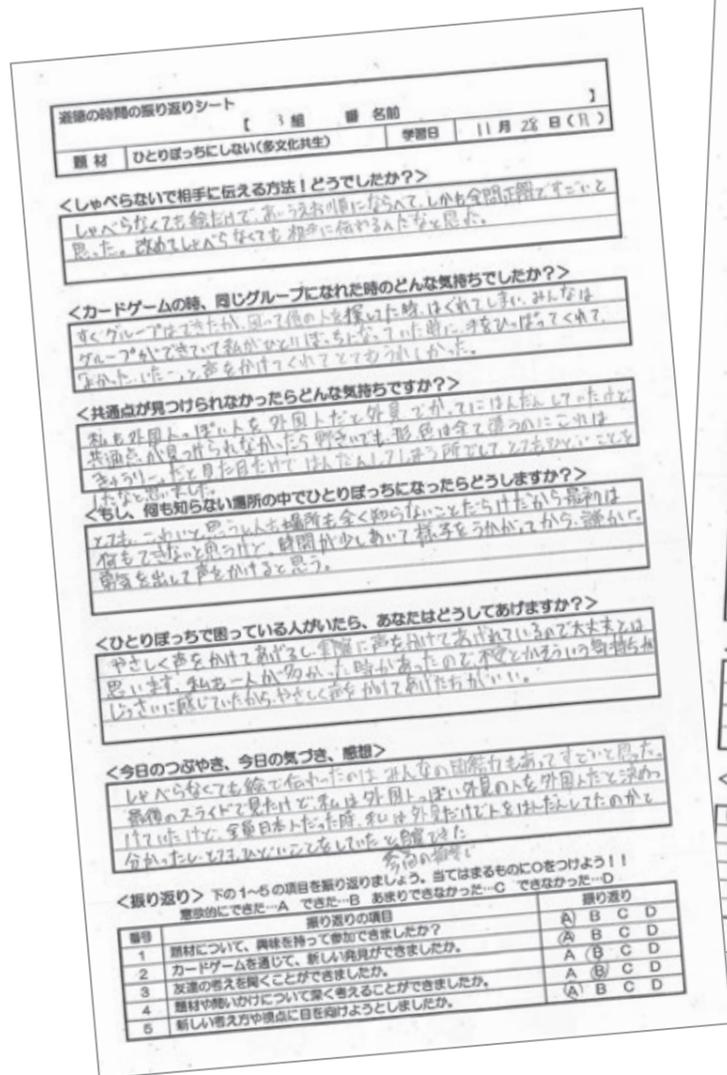
別頁「生徒記載のワークシート」参照

[15] 授業者による自由記述

多文化共生とは幅が広く、知れば知るほど、奥が深く理解しなくてはいけないと感じました。私の学校でもいろんな国籍の生徒や海外から転校してきた生徒も在籍していて、なかなか学校に馴染めずにいます。この経験を生かして、その生徒の本質により添えるよう私もまだまだ、勉強が必要と感じる研修でした。

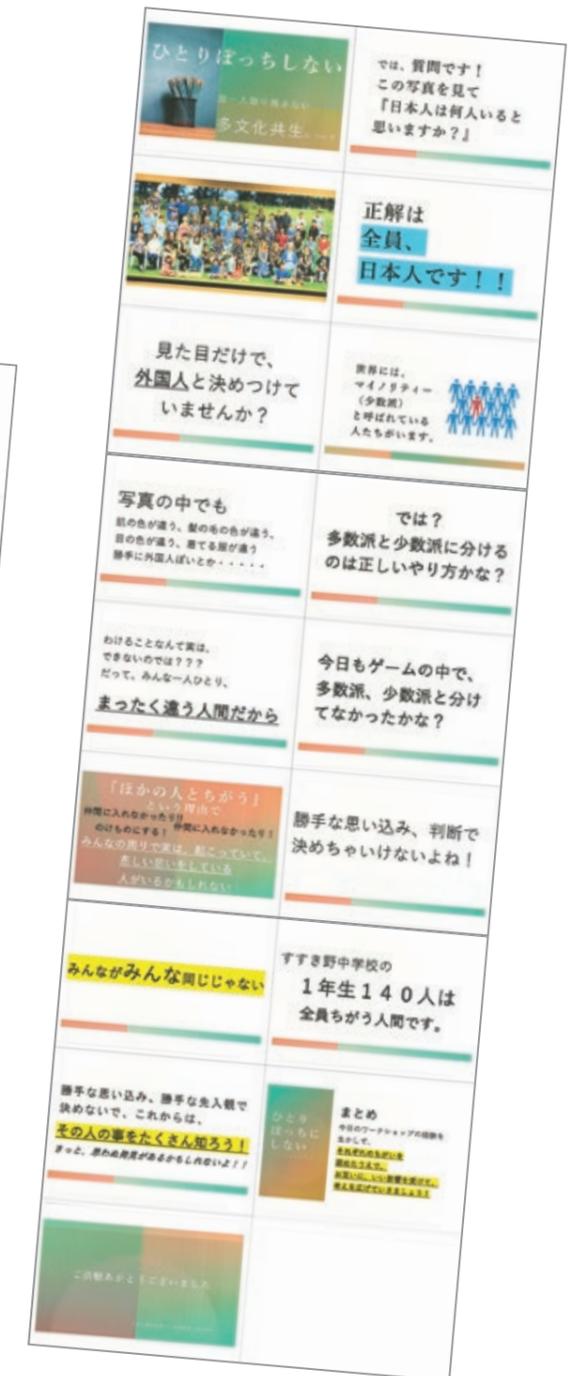
『みんな違ってみんないい』それが当たり前である社会。『ひとりぼっちにつくらない』共生できる社会を、これからも生徒に授業を通して、伝えて行きたいと思います。多文化共生、国際理解教育は、もはや特別な授業ではありません。当たり前の授業として、捉えてほしいです。

添付資料：



参考にした資料：

- JICA 横浜 2019年度、2021年度 教師国内研修 実践授業報告
- 2019年度、2021年度 JICA 横浜 教師国内研修参加者作成 参加型アクティビティ教材
- 新訂 新しい道徳1 東京書籍
- 海外移住資料館冊子【写真資料：ビックファミリー】



授業実践を経て、学習者(児童・生徒)の変化、反応

140人を一斉にワークショップをするのは大変でした。しかし、コロナの中で、全員と一緒に何かをすることが難しかったり、他クラスの交流が難しい中、生徒からクラスの違う子と初めて話せたとか、人と交流する事の楽しさを知ったという反応があり、これこそ多文化共生と改めて実感できました。

小林 和紀

学 校 名 川崎市立高津高等学校
 担 当 教 科 等 地理歴史公民科
 対 象 学 年 (人 数) 3年 (37名)

① 本研修参加の動機

これまで単発のJICAの研修を受講してきました。今回の通年での研修はよりスキルアップが目指せると感じ手を上げました。

② 日系人・日本人移住者から学んだこと

今の私たちの生活から見れば、想像を絶する苦難を乗り越え生き抜いてきたことを知りました。さらに日本が困っている時には、自らの生活を削ってまで支援して頂いたことを知りました。この歴史を生徒に伝えていきたいと思います。

③ 本研修参加前と後のご自身の变化

異校種間の交流ができたことにより、より柔軟な生徒・保護者対応ができるようになりました。

④ 本研修からの最大の収穫は？

人とのつながり、今いる場所から世界につながる絆が太くなりました。

⑤ その他、本研修に参加した感想

感染症対策に十分留意しながら、夜の会で本音を語り、メンバーの結婚祝いや出産祝いができて、心が若返りました。

実践者	氏名	小林 和紀	学 校 名	川崎市立高津高等学校
	担当教科等	政治経済	対象学年(人数)	3学年 選択授業 (37名)
	実践年月日もしくは期間(時数)	2022年11月24日 (1時間)		

【 実 践 概 要 】

【1】実践する教科・領域

公民科 政治経済

【2】単元(活動)名

現代社会の諸問題

【3】授業テーマ(タイトル)と単元目標

〈授業テーマ〉 「人種・民族問題」

〈単元目標〉 人種・民族問題の解決への取り組み

〈関連する学習指導要領上の目標〉 高等学校 公民科より

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。
- (3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

この中の(3)の「多面的・多角的な考察や深い理解」について授業内での共同的な活動において、ひとりひとりが自分事として、多文化共生の感覚を身につけることを主眼とした。

【4】評価の視点

- ① **知識及び技能** 各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解できるようにする。
- ② **思考力、判断力、表現力等** 公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現できるようにする
- ③ **学びに向かう力、人間性等** 地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見だし、その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明論述できるようにする。

【5】単元設定の理由・単元の意義(児童／生徒観、教材観、指導観)

【単元設定の理由】

高校3年間の最終段階において、これまでの学びの総括として、現代の諸問題を10項目に分けて取り上げ、卒業後の自分探しの糧とする。

【単元の意義】

人種差別や、民族紛争の解決のために、これまでどのような取り組みがなされてきたか？その背景と解決に向けて必要なことを探る。

【児童／生徒観】

進路決定に向けて、総合型選抜入試や一般推薦入試、そして大学共通テストを受験する生徒が混在し、モチベーションの維持が難しい。しかし、人類共通の問題に対し、映像や資料を使いながら授業展開をしていくと、我が事のように集中していく姿が見られる。

【指導観】

多文化共生の考えを浸透していくために、乗り越えていかねばならない諸課題の探究に当たっては、法、政治及び経済などの個々の制度にとどまらず、各領域を横断して総合的に探究できるよう指導していきたい。

【7】本時の展開

本時のねらい 異文化理解の重要性に気付く。

過程・時間	教員の働きかけ・発問 および学習活動・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
[導入] (10分)	教室入場時にカードを渡し、 ①しゃべらずに行動すること ②カードの自慢を考えておく と伝える 「ゲーム中に孤独を作らないこと」 ○野菜と果物のグループ ○同じ形のグループ ここで、各自カードの自慢をする ○同じ色のグループ ○全てが一つになる設定を考えさせる	無言で待機させる 30秒など時間を切って行動させる スイカとジャガイモを孤立させない 条件を聞く	カード
[展開]	ローザパークスから始まった、バスボイコット運動 で民衆が抵抗した映像を紹介する	机を戻す	ワークシート 配布
	マーチンルーサーキングJr 教師は、なぜ「バスに乗らないことが、 人種差別に対する抵抗運動になる」と訴えたのだろうか？		
	ワークシートに記述し、何人かに発言してもらおう 原住民族に対する関わり方 カナダやオーストラリアの多文化主義について ノンルーファンの原則	ワークシートへの記載を促す	教科書
[まとめ] (5分)	(生命や自由が脅かされる人々、特に難民に対する 追放及び送還の禁止)について 異文化理解力の重要性 「紛争」という言葉 何故、紛らわしいという漢字を使うのか？ →次回につなげる	教科書を見ながら空欄を埋める	ワークシート 回収

【8】評価規準に基づく本時の評価方法

多文化社会において、自身のアイデンティティ確立の大切さに気付くことができたか。

【9】学習方法及び外部との連携

本校常駐のALTが、毎週木曜日放課後に「異文化に触れる集い」を実施している。その希望者を増やすとともに、事前と事後の学びを深める関わりをしていきたい。

【10】学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

本校には、夏からシニア海外協力隊として、アフリカに派遣される教員がおり、この3月で退職する。その前に、これまでの実体験を少しでも生徒に伝えていく機会を設けていく。

【自己評価】

【11】苦労した点

全生徒が前向きにグループワークに取り組む手立てに苦心した。又、最近「タイパ(タイムパフォーマンス)」とあって、動画を1.5倍速で見る若者が増えていることも踏まえ、動画資料を見る時は、1.25～1.5倍速で流し、途中で止めて解説をする展開を試みた。

【12】改善点

川崎市教育委員会から感染予防のガイドラインが提示されており、十分なグループワークが行えないので、いかに個人の考えを深化させる仕掛けが重要になってくると感じた。

【13】成果が出た点

グループ分けをする中で、ひとりぼっちをつくらぬ活動を通し、人の心の動きを様々な視点から捉え、多文化共生社会の必要性を学ぶことができた。

【14】学びの軌跡(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

今日学んだことを自分事として置き換えて、日々の言動や振る舞いを考えたい。やはり、先入観の恐ろしさや、自分の居場所が侵されてしまう不安が差別につながってしまうのではないかな。

時には、ひとりぼっちを望む人もいるのでは？という関わり方もあるのではないのでしょうか。

【15】授業者による自由記述

「自分が持っている果物野菜カードの品目を、皆に自慢しなさい」という投げかけをした。これは、自分としての自己肯定感をつけて欲しいとの思いで問いをたてた。

又、アメリカでの公民権運動に触れ、バスにならない行動をとることが、多くの黒人たちが自分でもできる行動だとし、白人たちへの共感につながったことを提示し、非暴力主義の大切さを訴えることができたと思う。

参考にした資料： 実教出版 最新政治・経済 新訂版
最新政治・経済 新訂版 演習ノート 実教出版
2021 新政治・経済資料 三訂版 実教出版
JICA 横浜 2021年度 教師国内研修 実践授業報告
2021年度 JICA 横浜 教師国内研修参加者作成 参加型アクティビティ教材

添付資料： 1. ワークシート

2022年度 JICA 教師国内研修 授業実践
高校3年生 政治経済 ワークシート
3年 組 番 氏名 _____

教科書 58ページ 参照

・地域・民族紛争と諸問題・

- ・地域・民族紛争は1990年代から増加
- ①湾岸戦争…1990年のイラクのクウェート侵襲に対して、アメリカを中心とする多国軍が攻撃(国連安保理の武力行使容認決議をとった)
- ②チェチェン紛争…ロシアからの独立をめざすイスラム勢力を、ロシアが攻撃
- ③ユーゴスラヴィア内戦…1992年までに5つの共和国に分裂
- ボスニア・ヘルツェゴヴィナ紛争(「民族浄化(エスニッククレンジング)」が行われた)
- 1999年にはコソボ紛争でNATOが犠牲者の救済を理由に武力介入④人道的介入
- アフリカでは、1991年にソマリアで、1994年にルワンダで部族間紛争
- 2003年からスーダンの⑤ダルフール紛争
- ほか、スペインのバスク問題、中東のパレスチナ問題などの民族紛争あり

・難民や国内避難民が増加

難民条約では、難民：人や宗教、政治的意見の違いによる迫害から国外に逃げた人々

- ⑥ノン・ルフールマンの原則…難民を迫害する国に追放、送還してはならない
- ⑦国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) が難民の保護と救済活動をおこなう (NGOも協力)

・民族問題の解決に向けて

民族：一般的に歴史的・文化的な共通性をもつ集団で、その集団への帰属意識をもつ人々の集まり

民族の一体性を強調しすぎると、⑧自民族中心主義(エスノセントリズム)や民族差別へ偏狭なナショナリズムにとらわれず「⑨多文化主義」にたち、共生をはかることが大事

○なぜ、自分のカード自慢をさせたのか？

○なぜ、すべてがひとつになる設定を聞いたのか？

○なぜ、バスに乗らないことが、人種差別に対する抵抗運動になるのだろうか？

○あなたにとって、異なる文化をもつ人々を理解するには、どんな工夫が必要か？

⑨授業実践を経て、
学習者(児童・生徒)の
変化、反応

生徒たちは、発言・行動する前に、ちょっと考えることの大切さを学んだように感じました。

本田 晃寛

学 校 名 神奈川県立横浜旭陵高等学校
 担 当 教 科 等 公民(倫理)
 対 象 学 年 (人 数) 2、3年次(20名)

① 本研修参加の動機

多文化共生とは何かを理解したいと思いつつ、大きすぎるテーマに困っていました。これからの日本の社会を考えるうえで何かヒントが得られればと思い参加しました。

② 日系人・日本人移住者から学んだこと

「はじめは日本人になろうとした」「それをやめたときにとっても楽になった」という移住者の言葉がとても印象に残っています。誰もが自分らしくあれることが幸せなのだと感じました。

③ 本研修参加前と後のご自身の变化

自分は偏見を持っていないと思っていても、研修を通して思い込みや決めつけがあることに気づきました。さまざまな違いと多様性を認めるために、自分の中に多様性を受け入れる姿勢を持ち続けたいと思います。

④ 本研修からの最大の収穫は？

学習には終わりがなく、自分の中の多様な面に気づけたことです。私にとって今回の研修は、多文化共生について考える入り口になりました。これからも学び続けていきたいです。

⑤ その他、本研修に参加した感想

学習とは新たな知識を得るための楽しいものであることに気づいてほしいと思い、日頃の授業をしています。授業の中にワークショップを組み込むことで体験的な学習につなげることができました。今後は、より多くの気づきを与えられる活用方法を検討していきたいです。

実践者	氏名	本田 晃寛	学校名	神奈川県立横浜旭陵高等学校
	担当教科等	公民科 倫理	対象学年(人数)	2、3年(20名)
	実践年月日もしくは期間(時数)	2022年12月(2時間)		

【実践概要】

【1】実践する教科・領域

公民科 倫理

【2】単元(活動)名

文化と宗教の課題 -グローバル化と文化-

【3】授業テーマ(タイトル)と単元目標

〈授業テーマ〉「多文化共生、多文化主義、寛容、包摂」

〈単元目標〉①グローバル化による異文化交流は、文化を多様化するのか、それとも画一化するのか考える。
 ②社会が混乱したときや新しいことを生み出すときに多様性が強さに変わることを理解する。

〈関連する学習指導要領上の目標〉高等学校学習指導要領 公民科 倫理

1 目標

人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養う。
- (3) 人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。

2 内容

B 現代の諸課題と倫理

(2) 社会と文化に関わる諸課題と倫理

様々な他者との協働、共生に向けて、人間としての在り方生き方についての見方・考え

方を働かせ、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 福祉、文化と宗教、平和などについて倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述すること。

【4】評価の視点

- ① **知識及び技能** グローバル化が様々な面で世界を豊かにすると同時に、文化間の摩擦や差別を生んでいることを理解する。文化間の差異やそれぞれの文化の背景、各国の移民政策から、その要因を読み取ることができる。
- ② **思考力、判断力、表現力等** 日本の今後の移民の取り入れ方について、各国の移民政策の利点や欠点を比較しながら、よりよい政策を判断して考えることができる。
- ③ **学びに向かう力、人間性等** ヨーロッパの秩序とイスラム教の慣習から自由と権利について考えようとしている。

【5】単元設定の理由・単元の意義(児童／生徒観、教材観、指導観)

【単元設定の理由】

本単元は、文化と宗教の民族的・社会的な対立を扱う。グローバル化の進展は、それらの往来を活発にすると同時に対立も生んできた。このようなテーマは生徒にとって縁遠いと考えられる。それらを身近なものとするためには、生徒の生活経験と社会の諸問題を結びつける必要がある。

そのため単元構成は、第1時で移民の理解とワークショップ「フードバスケット」による体験的な学びを得ること、第2時で文化間摩擦としての文化の盗用から異文化との付き合い方を考えることとしている。

【単元の意義】

本単元の中心は「フードバスケット」で偏見や差別が生まれる構造を理解することにある。まずは、異なる文化をもたらす存在としての移民を扱い、異文化を知ろうとすることから始める。さらに、無理解からくる偏見が無意識のうちに差別を生むことに気づく。そして、「フードバスケット」を通して、私たちの中にある思考の枠組みが偏見や孤立を生むこともあれば、それらをなくすこともあることを体験的に学ぶことができる。

【児童／生徒観】

生徒らは、小学校や中学校でのこれまでの学習活動の積み重ねから、正解を見つけようとする傾向がある。また、発言に消極的で自分の考えに自信が持てない生徒も多い傾向にある。

答えを見つけようとするのは悪いことではない。一方で、そのような傾向にこだわりすぎると、これまでの自分の経験や知識の中に答えになりそうなものがない場合、無理やりこじつけて偏見を生んだり、思考をやめて周りに流されてしまったりすることになりかねない。多くの問題が山積し、先が見えにくい現代社会の中で生きていくためには、答えのない問いに向かい続ける粘り強さと、

未知の物事や考え方に出会ったときに自らを適応させて取り入れることのできる柔軟性が必要だと考えた。また、発言の消極的な生徒については紙面上での意見交流の機会を持ち、異なる立場の考えに触れるようにする。

【指導観】

「多文化共生」は、しばしば「少数者を守ろう。異なる文化も大切にするのは良いことだ。」という道徳的な正しさに目が行きがちである。道徳的な正しさを求めれば一定の答えはあるように思われるが、現代社会の中では様々な利害関係や社会情勢によって共通した答えが出されず、問題が放置されている現状がある。

知識としての「多文化共生」を身につけることは多くの人々がともに生きていくうえで重要であることには変わらない。しかし、それもまた1つの考え方に過ぎず、すべての人が賛成しているわけではないからこそ、考え続けなければならない問題であることを伝えたい。

「説得するより納得する」ことを大切に体験的な学びを目指し、授業の中で、さまざまな考えから「自らが何に納得し、どう生きてゆくのか」を選択する機会を経験させたい。

【6】単元計画(全3時間)

※本校は、2コマ連続100分授業をとる単位制普通科高校であり、本校における授業1時間は通常の学校の授業2時間(50分授業×2)に相当する。

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1 [本時]	グローバル化と文化	<ul style="list-style-type: none"> ■移民の流入という事実が同じでも、各国の思想・主義によって移民政策が異なることを理解する。 ■各国の移民政策の利点や欠点から、今後の日本が移民に対してどのような政策を取るべきか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ■グローバル化による移民の流入と世界の移民政策を理解する。 ■「フードバスケット」で移民の立場や移民に対する差別や偏見の構造を体験的に学習する。 ■「日本の人口推移のグラフ」、「在留外国人数のグラフ」から、今後の日本社会を展望する。 ■これからの日本がとるべき移民政策について自らの考えを持ち交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■「各国の移民政策の資料」 ■「ワークシート」 ■「日本の人口推移のグラフ」 ■「在留外国人数のグラフ」
2	文化の盗用と多様性	<ul style="list-style-type: none"> ■それぞれの文化の発祥の人々が不愉快になることなく、文化を豊かで魅力あるものに発展させるにはどうすればよいか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ■「外国人観光客の着物の写真」、「商品名KIMONOという補正下着の広告」、「コーンローでランウェイを歩く白人モデルの写真」から、文化が尊重される時とそうでは無い時の違いを考える。 ■文化間の摩擦や文化の盗用から、異文化との付き合い方を考える。 ■グローバル化によって文化は多様化し、豊かになっていくことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■「外国人観光客の着物の写真」 ■「商品名KIMONOという補正下着の広告」 ■「コーンローでランウェイを歩く白人モデルの写真」

【7】本時の展開(1時間目)

本時のねらい

- ①移民の流入という事実が同じでも、各国の思想・主義によって移民政策が異なることを理解する。
- ②各国の移民政策の利点や欠点から、今後の日本が移民に対してどのような政策を取るべきか考える。

過程・時間	教員の働きかけ・発問 および学習活動・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
[導入] (10分)	【導入】 ①ワールドカップから各国の違いを考える。 ②《今日のテーマ》を提示する。	■国が違えば、国旗、国歌、民族、言語、通貨、礼儀、食べ物、価値観、政治などさまざまな違いがあることを理解する。	各国のサッカーの代表の写真および国旗 (「授業スライド」参照)
移民とはどのような存在なのだろうか？			
[展開] (20分)	【展開①】 ①各国の移民政策を分析し、「ワークシート①」の左下の表に各国を位置付ける。 ②各国の移民政策を比較する。 排除：アメリカのメキシコ移民 同化：フランスのライシテ 包摂：カナダの多文化主義	■必要に応じて大切なところに線を引いたスライドの資料を参考にするよう指導する。 ■「仕事」「雇用」と「文化」「治安」という2つの視点から各国の移民政策を比較するよう指導する。	アメリカ、フランス、カナダの各国の移民政策(「ワークシート①②」参照)
(10分)	【展開②】 ①日本の人口と在留外国人の推移から近い将来の日本も移民と無縁ではないことを理解する。	■それぞれのグラフの推移に注目させる。	「日本の人口推移のグラフ」、「在留外国人数のグラフ」
(10分)	【展開③】 ①フードバスケットで考える。 ◎五十音順に円を作る。 ◎形でまとまる。 ◎色でまとまる。 ■スイカが「くる」で仲間はずれになる。	■時間制限を設けて、ワークショップにゲーム性を持たせる。 ■発話を制限し、移民の置かれた言語の通じない状況を疑似体験させる。 ■2人以上のまとまりを作るよう伝える。	ワークショップ 「フードバスケット」
(10分)	②スイカを仲間に入れる方法を考える。		
スイカを仲間に入れるにはどうすればいいだろうか			

	◎スイカを仲間に入れよう。 ■スイカは中を切れれば赤である。 ■分け方を大きくすれば仲間はずれにならない。	■「スイカを仲間に入れるためにはどうすればいいか？」と問い、仲間外れはそのものに依存しているのではなく、枠組みの分け方に依存することに気づかせる。	
	◎大きなまとまりを作ろう。 ■みんな食べ物だから1つでいい。	■生徒の動きが止まった場合は、まずは「野菜」と「果物」で分かれるよう伝える。	
スイカを移民に置きかえると、移民を仲間はずれにしない方法は何が考えられるだろうか			
(30分)	③日本の移民政策について考え、交流する。		
◎今後の日本に移民が来た時、移民はどのようにして扱われるべきだと思いますか 排除 同化 包摂			
	◎「ワークシート③」のAに自分の考えを記入する。	■記述のしやすさを担保するため、「ワークシート③」には指示があるまで名前は書かないよう伝える。	サイレントダイアログ (「ワークシート③」参照)
	◎一度用紙を回収し、他の人の「ワークシート③」のBに自分の考えを記入する。	■自分の考えの記述するときには、印象ではなく、根拠を持って記述するよう指導する。	
	◎もう一度用紙を回収し、他の人の「ワークシート③」のCに自分の考えを記入する。		
	◎自分の用紙を手元に戻し、「ワークシート③」のDに最終的な自分の考えを記入する。	■ただまとめるのではなく、他者の意見を参考にするよう指導する。	
[まとめ] (10分)	【まとめ】 ①他者との意見交流を踏まえて、再度記述し、振り返りをする。	■「ワークシート③」の振り返りをする。時間が余った生徒には、「ワークシート①」の右下に再度自分の考えをまとめるように伝える。	

【8】評価規準に基づく本時の評価方法

サイレントダイアログの「ワークシート③」のDの記述についての記述を評価する。「フードバスケット」でのスイカを仲間に入れるためにはどうすればよいか」という問いに対する答えを移民にあてはめた場合について考えながら、日本のとるべき移民政策について自らの考えが述べられているか評価する。その際、他者の考えを取り入れながら自らの主張を述べているかについても評価する。

【9】学習方法及び外部との連携

なし

【10】学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

本校の生徒には、外国にルーツを持つ生徒も一定数在籍している。そのような生徒の人権に配慮しつつ、「多文化共生」、「多文化主義」を扱うことで、「だれひとり取り残さない」という価値観を伝えていきたい。

また、高等学校における道徳教育において「倫理」は中核をなす科目であるとされている。日常的な生徒指導と関連させながら、他の教員と連携して「多文化共生」、「多文化主義」の重要性を伝える教育を継続していきたい。

【自己評価】

【11】苦勞した点

後半の授業の展開としては、孤立した「スイカ」や「サツマイモ」をまとまりに取り入れる時に出された、「中身を見ること」や「より大きな枠組みで分かれる」といった考え方を日本における移民政策にあてはめるとどうなるかという問いを立てた。その問いに答えつつ、まとめの活動として「今後の日本がとるべき移民政策は排除・同化・包摂のどれが望ましいか」という問いに対して生徒自身の考えをまとめた。

「フードバスケット」は社会の中で孤立する移民の心情や状況を体験的に学ぶことは出来るものの、現実社会に存在する排除としての差別を顕在化させることができなかった。「多文化共生」は尊いものだが社会の中にある様々な考え方の1つに過ぎないということを扱うという当初のねらいを達成しきれていない部分でもある。

【12】改善点

現実の問題として見られる排除の問題を「フードバスケット」の中で十分に扱いきれず、「多文化共生」もひとつの考え方であることを伝えきれていないところがあると感じている。

それを改善するためには、「フードバスケット」を実践する中で、あえて特定のカードが孤立する問いを生徒らに立てさせることが考えられる。排除が社会の中で合理的な選択となりうる場合を示し、それでもなお、包摂が対立を超えて社会を強くする可能性を秘めていることを伝えたい。

【13】成果が出た点

移民がもたらす様々な利点や欠点を示す題材として各国の移民政策を扱い、今後の日本がとるべき移民政策を考えるという本時のねらいは概ね達成できた。「フードバスケット」を通して、枠組

みが孤立を生むこともあれば孤立をなくすこともあることを体験的に学ぶことができたと考えている。生徒の授業後の「ワークシート」にも、差別や偏見が勝手な決めつけから生まれることがあるということに気づけたという感想も見られた。

【14】学びの軌跡(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

生徒の
ワークシート

A. 自分の考え	あなたの記号
私は包摂だと思います。理由は、人間はだれもが自由であると思うからです。 国が違うからといって物産を別の人、とはまり分ける必要はない と思うから。自由は大事！	
B. 上のAの考えを読んで考えたこと、質問、感想を書きましょう。	あなたの記号
Aさんと一緒に、異なる文化を慣れるまで時間がかかるけど、いざいざ慣れる。 日本の文化はあまりに強くて、他国の人をアラスカで、→他の国の文化が活かされて いなくなると日本は成長していくかもしれない。自由は大事！	
C. 上のA、Bの考えを読んで考えたこと、質問、感想を書きましょう。	あなたの記号
私も包摂が好き！と私も思いました。 和食も私たちがお互いデメリットが少なすぎ、自由がいいと思えます！	
D. 他人の考えB、Cを取り入れて考えたことを書きましょう。	
やっぱり、包摂が良いと思った。たしかに文化がクレ変わって、 独自性はなくなってしまうかもしれないけど、他のことを考えれば、 日本人がクレはるのと物産の人も大切に扱うべきだと思う。	

ある生徒の「ワークシート③」の記述である。AとDは同じ生徒、B、Cはそれぞれ異なる生徒による記述である。最初のAでは、移民の文化の自由を認めつつ自らの考えを記述している。B、Cの生徒は、ともに包摂を選択している点ではAと同じだが、移民を取り入れることのメリットやデメリットについて触れている。それを踏まえての最終的な考えを記述するDでは、最初に記述したAと同様に包摂を選択してはいるものの、文化の多様性に触れたり日本の今後を考えたりする視点が追加されている。その点で1つの事実についても多様な見方が示されており、紙面上の対話が果たす役割は大きい。

【15】授業者による自由記述

本授業案は、「フードバスケット」とサイレントダイアログを用いることで、生徒が多様な価値に開かれた態度を身につけ、「多文化共生」への理解を深めようとするものである。「多文化共生」は多様な価値観の1つに過ぎないものの、偏見やそれからくる差別にあらがう手段の1つと考えている。本時の授業のまとめの活動では、移民に対して寛容な態度をとる包摂を選択した生徒が多くなった。包摂の考え方もまた、1つの見方にすぎないことや排除を唱える人々の考え方も受容していく必要があることを考え続けて欲しいと伝え、授業のまとめとした。

生徒には、今後の生活の中で異文化を背景に持つ人と出会った時に、少しでもこの授業で感じたことを参考にしてもらいたい。

そして、教師自身も多様な価値に開かれた姿勢を持ち続けることが求められているのではないだろうか。

参考にした資料：

- ・いらすとやHP「かわいいフリー素材集 いらすとや」
https://irasutoya.com (最終閲覧：2022年11月3日)
- ・外務省HP「わかる！国際情勢 Vol.38多文化主義と多国間主義の国、カナダ」
https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/wakaru/topics/vol38/index.html
(最終閲覧：2023年1月31日)
- ・出入国在留管理庁「令和3年末現在における在留外国人数について」 2022年3月29日
- ・伊達聖伸『ライシテから読む現代フランスー政治と宗教のいま』 岩波書店、2018年。
- ・友原章典『移民の経済学 雇用、経済成長から治安まで、日本は変わるか』 中央公論新社、2020年。
- ・内閣府「令和4年版高齢社会白書」 2022年6月14日
- ・村瀬智之「紙上対話という授業実践の試みー哲学的議論による思考力の育成を目指してー」
高専教育第38号、2015年。
- ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』 東京書籍、2019年。

添付資料：

1. パワーポイント資料
2. ワークシート①
3. ワークシート②
4. ワークシート③

<p>グローバル化と文化</p> <p>サッカーの世界大会を紹介する写真 ※権利の都合で差し替え</p>	<p>◎国が違う（異なる）と違ってくるものには何があるだろうか？</p>
<p>ドイツ</p> <p>サッカードイツ代表の写真 ※権利の都合で差し替え</p>	<p>キーワード 移民・異文化</p> <p>横浜中華街やインドカレーの店の写真 ※権利の都合で差し替え</p>
<p>スペイン</p> <p>サッカースペイン代表の写真 ※権利の都合で差し替え</p>	<p>《用語の確認》</p> <p>①グローバル化</p> <p>モノ ヒト 情報 カネ</p>

<p>移民 ：本来の居住地を離れて移動して生活する人</p>	<p>移民：本来の居住地を離れて移動して生活する人</p> <p>↓</p> <p>②異文化の交流 (言語・習慣・宗教・価値観)</p>	<p>フランス：公共の場でのベール禁止 ライシテ 十字架・スカーフ</p>	<p>カナダの多文化共生</p> <p>“多様性は私たちの強さ” もともと違うから変化も怖くない = 社会の強さ</p>
<p>アメリカとメキシコの壁</p>	<p>《世界の国々の移民政策》</p>	<p>③多文化主義</p>	<p>《社会への移民の取り入れ》</p> <p>④排除 ⑤同化 ⑥包摂</p>

<p>高齢化</p> <p>労働人口の減少</p>	<p>移民（在留外国人）</p> <p>技能実習</p>	<p>《フードバスケット》</p> <p>会話は禁止</p> <p>ヒントを参考に同じ形でまどまろう</p>	<p>《フードバスケット》</p> <p>会話は禁止</p> <p>同じ色でまどまろう</p>
<p>外国人労働者に対して</p> <p>差別・偏見</p>	<p>《フードバスケット》</p>	<p>《フードバスケット》</p> <p>会話はOK!</p> <p>できるだけ大きなまどまりを作ろう</p>	<p>◎どうしたら____は仲間に入れる？</p>
<p>《フードバスケット》</p> <p>机を後ろに下げましょう</p>	<p>《フードバスケット》</p> <p>会話は禁止</p> <p>五十音順に円に並ぼう</p>	<p>◎どうしたら_移民_は仲間に入れる？</p> <p>上のフードバスケットの《方法》を人間に置き換えるとどうなるでしょうか？</p>	<p>◎今後の日本に移民が来た時、移民はどのようにして扱われるべきだと思いますか？</p> <p>同化 排除 包摂</p>

<p>《今日のテーマ》に対して</p> <p>同化…多様性が失われる 包摂…多様性が保たれる</p> <p>違いがあるかは人間の基準</p>

ワークショップ名 No.〇〇 グローバル化

① 国が違えば異なる文化を持つものには何かあるだろうか？

例：国旗

今日のテーマ

用語の確認

② 国家を単位とせず、モノ・情報・ヒト・カネが大量に行き来すること

③ 異なる文化・異文化とは：自分が親しんでいる文化とは異なる文化のこと。ここでは、国民から見た移民の文化。

移民：本来の居住地を離れて移動して定住する人

④ 異なる言語や習慣、宗教、価値観などの異なる文化などをもった人々と接する機会が増えてくる。

⑤ 異なる言語や習慣、宗教、価値観などの異なる文化などをもった人々と接する機会が増えてくる。

⑥ 異なる言語や習慣、宗教、価値観などの異なる文化などをもった人々と接する機会が増えてくる。

⑦ 異なる言語や習慣、宗教、価値観などの異なる文化などをもった人々と接する機会が増えてくる。

⑧ 異なる言語や習慣、宗教、価値観などの異なる文化などをもった人々と接する機会が増えてくる。

⑨ 異なる言語や習慣、宗教、価値観などの異なる文化などをもった人々と接する機会が増えてくる。

⑩ 異なる言語や習慣、宗教、価値観などの異なる文化などをもった人々と接する機会が増えてくる。

アメリカの移民政策

アメリカは世界でもっとも多くの移民を受け入れ、多様な文化を持つ国です。自由を重んじるアメリカでは、多様な文化を持つ多様な人々が生活し、社会を大きく発展させてきました。アメリカでは、多様な文化を持ちながらアメリカへの強い愛国心を育てる教育がおこなわれています。その多様性のおかげでアメリカは世界でも多くの技術革新や利益を生み出す一方、適切な教育を受けられない移民労働者の非正規な移民は、アメリカ西部と南西部において社会を揺るがす政治問題になっています。これらの労働者がアメリカ労働者から仕事を奪い、雇賃を高くすると主張する人がいます。現実にはそのような考え方は、アメリカとメキシコの国境には大きな壁が建設されています。

フランスの移民政策

フランスは日本と同様に労働力不足を解消するために多くの移民を受け入れてきた国です。しかし、多くの移民が自らの文化を主張することで、フランスの伝統的な文化が失われつつあります。現在のフランスの政治の仕組みの基礎は、市民が王や聖職者から自由と平等の権利を勝ち取ったことに立ち上ったフランス革命によってつくられました。そのため、平等を大切にしているフランスでは「ライシティ」と呼ばれる政教分離の原則（政治と宗教を分けて考える原則）をもとに、公共の場での宗教的表現を禁止しています。イスラム教を信じる人々の人権侵害になるのではないかと心配する声もあ

カナダの移民政策

カナダは人口減少による労働力不足から、多くの移民を受け入れをすすめている国の一つです。現在では、移民を求めるとして移民のために必要な資格を政府が公開し、移住のための補助金を出すなど、積極的に多文化主義（多文化共生の考え方）を進める政策を行っています。

カナダは国がつけられた当時から、イギリス系出身の人からフランス系出身の住人が新しい国で生活する人々とともに生活する必要があるという考えがありました。しかし、異なる言葉や文化を持つ人々の間には、政治の考え方や公用語などで対立が生まれ、一つに定めるのは簡単ではありませんでした。そこでカナダは、国家のなかで一つの言語や文化を定めるよりも、一つの国の中で多様な民族が異なる言葉や文化を持ちながら生活することを認めました。そして、多文化主義をカナダの共通の文化にし、自分たちの社会の強みにしていくことになりました。

① 異なる言語や習慣、宗教、価値観などの異なる文化などをもった人々と接する機会が増えてくる。

② 異なる言語や習慣、宗教、価値観などの異なる文化などをもった人々と接する機会が増えてくる。

③ 異なる言語や習慣、宗教、価値観などの異なる文化などをもった人々と接する機会が増えてくる。

④ 異なる言語や習慣、宗教、価値観などの異なる文化などをもった人々と接する機会が増えてくる。

⑤ 異なる言語や習慣、宗教、価値観などの異なる文化などをもった人々と接する機会が増えてくる。

⑥ 異なる言語や習慣、宗教、価値観などの異なる文化などをもった人々と接する機会が増えてくる。

⑦ 異なる言語や習慣、宗教、価値観などの異なる文化などをもった人々と接する機会が増えてくる。

⑧ 異なる言語や習慣、宗教、価値観などの異なる文化などをもった人々と接する機会が増えてくる。

⑨ 異なる言語や習慣、宗教、価値観などの異なる文化などをもった人々と接する機会が増えてくる。

⑩ 異なる言語や習慣、宗教、価値観などの異なる文化などをもった人々と接する機会が増えてくる。

サイレントダイアログ

自分の考え

上のAの考えを読んで考えたこと、反応、感想を書きましょう。

上のBの考えを読んで考えたこと、反応、感想を書きましょう。

上のCの考えを読んで考えたこと、反応、感想を書きましょう。

他の人の考えを記入して考えたことを書きましょう。

振り返り

今日のサイレントダイアログの取り組みはどうでしたか。 □にチェック✓を入れよう。

意見と一緒にその理由を書けたか

他の人の意見を取り入れて深めることができたか

サイレントダイアログの感想を書こう

感想

氏名と記号を記入しよう（指示があるまで書かない）

氏名

社会への移民の取り入れ方

① 異なるものを仲間から取り除くこと 例：アメリカとメキシコの間に作られた壁

② 異なるものを多数に寄せてあげること 例：フランスの学校でのベル禁止

③ 異なるものをそのまま仲間に入れて包み込むこと 例：移民国家カナダでの多文化共生

④ 異なるものをそのままとし、自分たちの社会の強みにしていくこと

⑤ 異なるものをそのままとし、自分たちの社会の強みにしていくこと

⑥ 異なるものをそのままとし、自分たちの社会の強みにしていくこと

⑦ 異なるものをそのままとし、自分たちの社会の強みにしていくこと

⑧ 異なるものをそのままとし、自分たちの社会の強みにしていくこと

⑨ 異なるものをそのままとし、自分たちの社会の強みにしていくこと

⑩ 異なるものをそのままとし、自分たちの社会の強みにしていくこと

日本の移民政策を考える

① 異なるものをそのままとし、自分たちの社会の強みにしていくこと

② 異なるものをそのままとし、自分たちの社会の強みにしていくこと

③ 異なるものをそのままとし、自分たちの社会の強みにしていくこと

④ 異なるものをそのままとし、自分たちの社会の強みにしていくこと

⑤ 異なるものをそのままとし、自分たちの社会の強みにしていくこと

⑥ 異なるものをそのままとし、自分たちの社会の強みにしていくこと

⑦ 異なるものをそのままとし、自分たちの社会の強みにしていくこと

⑧ 異なるものをそのままとし、自分たちの社会の強みにしていくこと

⑨ 異なるものをそのままとし、自分たちの社会の強みにしていくこと

⑩ 異なるものをそのままとし、自分たちの社会の強みにしていくこと

フードバスケット

① どうしたら は仲間に入れてあげようか？

② どうしたら移民は国家の仲間に入れてあげようか？上のフードバスケットの【方法】を人間におきかえて記入してみよう。

③ 今後の日本に移民が来た時、移民はどのようにして扱われるべきだと思いますか？

私は日本に移民（在留外国人）が来た時、移民は社会の中で されるべきだと思います。

理由は、

③ 授業実践を経て、学習者(児童・生徒)の変化、反応

授業の冒頭で国が違えば肌や髪の色が違えば意見を出してくれた生徒が、授業の終わりには見た目だけで人を判断すると偏見につながるという振り返りをしていました。ワークショップで体験的に学べたことが何よりです。

子どもたちに伝えたい！

本田 晃寛

伝えたいことは2つ！「自分の個性と他の人の個性を大切にしましょう。」
「知らない世界がいくつもあることを知り、それに触れることを恐れないようにしましょう。」
きっと素敵で楽しい新たな発見があなたを待っています。

小林 和紀

まずは行動してみよう。そして、もう一度考えて、又、行動してみよう。

井上 奨太

自分が自分らしく生きていこう！見た目で判断するのではなく、お互いの違いを受け入れて、
自分ができることをしよう！と伝えたいです。

村越 都季恵

自分の当たり前は相手の当たり前ではないです。日本の素晴らしい文化を語れますか？
私はまだまだです。日本の素晴らしい文化も、外国の素晴らしい文化も知って
共に生きていくことを大切にしてほしいです。
誰と接する時でも、「リスペクト」は何よりも大事だと思っています。

松田 明子

遠くの世界にも身近な社会にも、多様な価値観、多様な文化、多様な背景を持つ人が
世の中にはたくさんいます。だからこそ自分を見つめ直し見方・考え方を広げて、
多様な視点を持って人と関わることを大切にしていきたいですね。

山本 麻衣

あなたの周りで困っている人はいませんか？実は知らない事があるかもしれません。
たくさん話して、たくさん聞いて、ぜひ、優しい気持ちで受け入れてあげてください。
みんな同じではありません。違っていいんだよ。
それを認め合える世界になってほしいです。



教員に伝えたい！

本田 晃寛

多文化共生(多文化主義)は1つの考え方にすぎません。しかし、多様な人々が
より幸せになれる最善の方法だと思います。先生方もさまざまな実践の場で
目の前の子供達を幸せにする実践に挑戦してみてください。

小林 和紀

気配りの声掛けをする前に、その言葉が逆差別になっていないか？
考えてから発言・行動をして下さい。

井上 奨太

言葉の投げかけに気をつけましょう！相手にとってその言葉は傷つけているかも
しれないので、言葉は言葉と言われるように自分の言葉や言動に意識を向けましょう。

村越 都季恵

困っている児童に本気で寄り添う事って難しいですよね。頭で考えすぎずに、
自分があの子だったらって考えることを大事にしてください。
「みんなちがってみんないい」とは言うけども教師として、どこまでそう思っているか
考えてみてほしいです。

松田 明子

まず教師自身も自分自身の認識、人権感覚、価値観を振り返ることが大切だと思います。
また遠くの外国の誰かについて考えることだけでなく、
多様な背景を持った身近な人を大切にすることが多文化共生につながると思います。

山本 麻衣

学校には、様々な教員がいる一方、色々と問題を抱えた生徒もたくさんいます。
目を逸らさずに、まずは、話を聞いてあげてください。声をかけてあげてください。
まずは、学校に安心して通える環境を作るのが私たちの役割です。
多文化は他人ごとではありません。ぜひ、自分事として受け止めてほしいです。



ワークショップづくり、実践などについて 教員に伝えたい！

本田 晃寛

ワークショップや活動は、あくまでも手段です。うまくいったか、それともうまくいかなかったのかは、生徒が気づきを得られたのかで測りましょう。活動を実施することにこだわりすぎると、本来の目的を見失ってしまいます。



小林 和紀

まず発言する。まず手を動かす。変化を恐れず一体感を大切にしていきたいでしょう。



井上 奨太

自分では思いつかないアイデアが出てきました！0からみんなで一つのを創り上げていい経験になりました。他校種の先生方がいたので、よりシンプルでどの校種でもできるワークショップができました。



村越 都季恵

このワークショップはとてもシンプルで汎用性があります。どんな学年でもこのワークショップで授業できます。ワークショップを最初から最後まで作るのは初めてでしたので、こんなにも何度も話し合いを重ねて出来上がった時の達成感があります。高校の部活みたいでした！



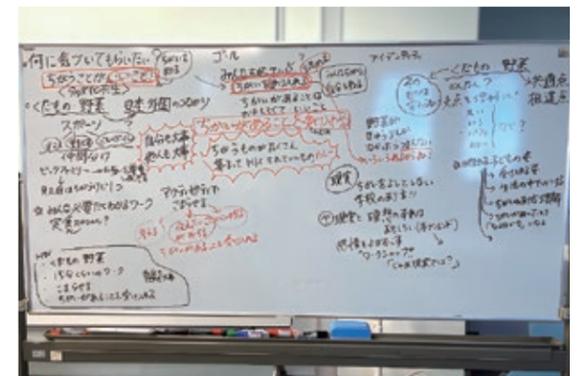
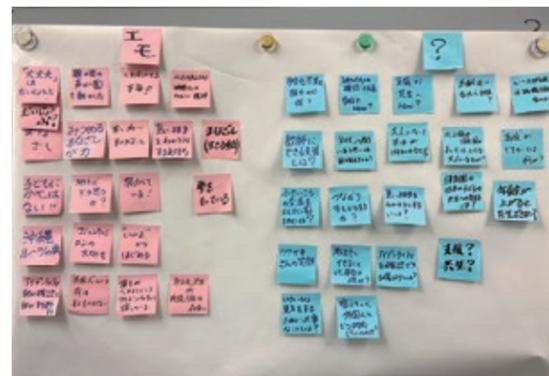
松田 明子

ねらいを明確に持ち、ワークをする意味を考え、ワークを活用していくことが大切です。同じワークを使っても、発達段階や背景の違う子ども達の実態に合わせて、学びにどのようにつなげ、深めていくかを考えていくことが大切だと思います。



山本 麻衣

ぜひ、気軽に使ってほしいです。私たちは、簡単に使えるのを考えました。道徳でも総合でも、教科でも、いくらでも使い方次第アレンジができます。ぜひ、ゲーム感覚で、学びに繋げ、多くの人にこのワークを知って活用してほしいと願っています。



ご協力いただいた皆様

- ・かながわ開発教育センター (K-DEC)
- ・小野行雄氏 (かながわ開発教育センター)
- ・特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議 (ESD-J)
- ・公益財団法人海外日系人協会
- ・横浜市立北上飯田保育園
- ・公益財団法人横浜市国際交流協会鶴見国際交流ラウンジ
- ・JICA 横浜教師海外・国内研修過年度参加者の皆様

スタッフ

- ・JICA 横浜 中野貴之
- ・株式会社メディア総合研究所 (2022 年度運営事務局)



独立行政法人国際協力機構
横浜センター (JICA 横浜)

〒231-0001 横浜市中区新港2-3-1

Tel : 045-663-3220 (直通)

Fax : 045-663-3265

E-mail : yictpp@jica.go.jp

<https://www.jica.go.jp/yokohama/>



